TOKAI UNIVERSITY STUDENT ACHIEVEMENT CENTER CHALLENGE PROJECT ~ ACTIVITY REPORT 2022 ~

2022年度
活動報告書
～チャレンジプロジェクトの活動報告～

東海大学スチューデントアチーブメントセンター
〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1
TEL：0463-50-2504（直通）
MAIL：project-kakari@tsc.u-tokai.ac.jp
URL:http://www.u-tokai.ac.jp/challenge/

東海大学スチューデントアチーブメントセンター

目次

チャレンジプロジェクト活動報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

＜湘南キャンパス＞
病院ボランティアプロジェクト ・・・・・・・・・・・・・・ 3
スポーツ社会貢献プロジェクト ・・・・・・・・・・・・・・ 4
サイエンスコミュニケーター ・・・・・・・・・・・・・・ 5
キャンパスストリートプロジェクト ・・・・・・・・・・・ 6
Tokai Formula Club・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
東海大学ソーラーカーチーム ・・・・・・・・・・・・・・ 8
東海大学人力飛行機チーム TUMPA ・・・・・・・・・・・ 9
東海大学学生ロケットプロジェクト ・・・・・・・・・・・ 10
Tokai International Communication Club ・・・・・・ 11
3.11 生活復興支援プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・ 12
Beijo Me Liga ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
Tokai Dream Space Team ・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
Egyptian Project ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
学生相談窓口【little tree】 ・・・・・・・・・・・・・・・ 16

＜高輪キャンパス＞
Takanawa 共育プロジェクト ・・・・・・・・・・・・・・・ 17

＜伊勢原キャンパス＞
Global Innovation Project・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

＜清水キャンパス＞
商品開発プロジェクト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

＜熊本キャンパス＞
先端技術コミュニティ ACOT ・・・・・・・・・・・・・・・ 20
阿蘇援農コミュニティープロジェクト ・・・・・・・・・・ 21
阿蘇は箱舟プロジェクト ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
あにまるれすきゅープロジェクト ・・・・・・・・・・・・ 23

＜札幌キャンパス＞
札幌ボランティアプロジェクト ・・・・・・・・・・・・・・ 24

2022 年度 ユニークプロジェクト一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
メディア掲載一覧 / スチューデントアチーブメントセンター長受賞者・・・ 26
1 年間の活動記録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

湘南 病院ボランティアプロジェクト

◆活動概要

活動理念は、「入院されている患者様へこころの健康を提供」「健康的な地域社会の実現」の２つである。
前者では、患者様が入院生活を送る中で抱える不安や閉塞感を緩和するための院内ボランティア活動を、後者では、正しい健康情報を届けることを目的に、「絵本製作」や「病ボラ便り」等の企画を実施していく。また、コロナ禍に合わせた企画の継続を図りつつ、オンラインと対面を交えてより良い企画を目指す。

◆学びのテーマ

思いやりのあるコミュニケーションを通じて、各々の考えを論理的かつ創造的に深める

◆１年間の達成目標

地域住民ひいては地域社会の健康課題を解決するために、“正しい健康情報”を工夫して発信し続ける

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	加藤光紀（文化社会学部心理・社会学科４年）
広報リーダー	松田真帆（教養学部人間環境学科社会環境課程３年）
会計	森岡成（文化社会学部心理・社会学科４年）
アドバイザー	池村明生（教養学部芸術学科デザイン学課程）
コーディネーター	矢野厚一（ティーチングクオリフィケーションセンター）

・・・メンバー数 13 名

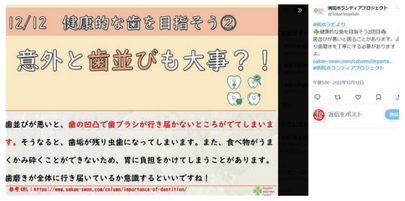
◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～絵本制作『アルコールマン』～

健康・医療知識の発信によって、地域社会の健康・医療課題を解決することを目的に、子ども向け絵本の制作と児童関連施設への配布を行った。
具体的には、児童に向けた「アルコール消毒の有効性」の視覚的な伝達である。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、入店時にアルコール消毒を促されるようになったことを踏まえ、児童に対し「アルコール消毒にはどのような意味があるのか、どのような作用が起こっているのか、ウイルスに対してなぜ有効なのか」を伝えるために企画を遂行した。当活動では、「脚本･コンセプト制作」「イラスト制作」「配布先施設との交渉」の３つのフェーズで進めた。
最もプロジェクトメンバーが成長した活動は、「配布先施設との交渉」である。これまで、学校という小さなコミュニティで生きてきたため、外部のコミュニティとどのようにコミュニケーションをとれば良いのかわからなかったメンバーたちが、その手法を意欲的に吸収し実践することで、外交的なコミュニケーション方法を確立させることに成功した。その結果、病院やこども園などの施設約 12 カ所への配布を成約させることを達成した。

～ SNS による健康・医療情報の発信～

Twitter を活用し、月ごとにテーマを設定して健康・医療に関する情報発信を行った。今年度は、イラストとコンパクトな文章による健康・医療知識の発信に加え、公的機関が定めた特定期間における健康・医療に関連する行事の情報発信も積極的に行った。
最もプロジェクトメンバーが成長した活動は、「健康・医療情報の獲得」と「情報発信のスケジュール管理」の２つである。前者では、内閣府や厚生労働省が発信している情報を常にインプットすること、そして日々の生活習慣で抱いた疑問や目にした情報から、検索エンジンを用いてさらなる知識を吸収することを徹底した。また、後者では、それらの情報をよりわかりやすく伝えるにはどのような構成にすべきか、それをどのような頻度でどの情報をお届けするかを広報リーダーが主導して考案し、綿密なスケジューリングを行った。上述の取り組みにより、「正しい情報を正確にインプットする力」と「日常生活から得た知見を一層深める力」、「継続的に発信するためのスケジュールをマネジメントする力」を獲得した。その結果、１投稿の Twitter への最大表示回数 450 を達成することに成功した。



湘南 スポーツ社会貢献プロジェクト

◆活動概要

スポーツ社会貢献プロジェクトは、「スポーツを通じて地域の QOL を向上させる」を活動理念とし、スポーツを通じて子ども達や地域の方々と交流を深めることを目的にさまざまな活動を行っているプロジェクトである。例年、未就学児対象の「ニコニコ教室」や小学生対象の「子どもの家」、高齢者対象の「ノルディックウォーキング教室」など年間 15 回に及ぶイベントを企画・運営している。

◆学びのテーマ

コロナ禍でもイベントを開催するにはどうしたらよいのか、また新しい企画から自ら考える力を学ぶ

◆１年間の達成目標

感染対策を行いながらでも、十分に楽しめる対面イベントを行う

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	天野逸人（体育学部体育学科３年）
サブリーダー①	浜田知佳（体育学部スポーツ・マネジメント学科３年）
サブリーダー②	酒巻帆花（体育学部生涯スポーツ学科３年）
広報リーダー	矢久保ひかる（体育学部体育学科３年）
会計	米澤真衣子（体育学部スポーツ・マネジメント学科３年）
アドバイザー	荻裕美子（体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科）
コーディネーター	遠藤潤治（ウェルネスカレッジオフィス）
	中野宏美（ウェルネスカレッジオフィス）

・・・メンバー数 164 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～でかスポ杯～

３年ぶりの開催となった「でかスポ杯」は、プロジェクトとして復活させたいイベントであった。コロナ禍で、プロジェクト同士の交流や人との交流が少なくなっていると感じていたため、でかスポ杯を通して以前のように戻すことができるのではないかと考えていた。プロジェクトメンバーとも“ぜひとも実現させたい”と話し、７月の開催ではあったが、３月頃から企画をはじめ実現させることができた。現在所属するプロジェクトメンバーは、メンバー同士で行うスポーツ大会は企画したことがあるものの、他プロジェクトのメンバーも含めたイベントは初めてであった。スポーツが苦手な人でも楽しく参加できることを軸に企画を考えた結果、湘南校舎のプロジェクトから９０名が参加した。でかスポ杯をきっかけに、プロジェクトの横のつながりを作ることができ、今後も他プロジェクトとのコラボ企画の開催を検討している。

～グローカルフェスタ～

このイベントも３年ぶりの開催となり、当プロジェクトメンバーは初めての参加となった。もともと当プロジェクトのみで行う予定であったが、SPC の北濱先生から一緒にやらないかとお誘いがあり、協力して合同で参加することとなった。テーマはニュースポーツを体験してもらうことであり､バッゴーやボッチャ、ボックスホッケー、モルックなどニュースポーツと呼ばれるものをゼミ生の方と協力して行った。ニュースポーツのルール説明からデモンストレーションまですべて行った。他の団体と協力して行うことがメンバーにとっては初めてであったが、当プロジェクトのメンバーは率先して動いていたため、メンバーの成長にもつながったのではないかと考える。予想を超える来場者の方に来ていただいたため、ニュースポーツを多くの人に体験してもらうことができたと考える。また来場者と参加メンバーを比較すると割合的に圧倒的に少ないメンバーではあったが、説明をする役割の人、列を整列させる役割の人、などメンバー自身で自ら考え臨機応変に対応することができた。

湘南 サイエンスコミュニケーター

◆活動概要

本プロジェクトは「理科離れ」という社会問題を解決することを目標として活動する。会場参加型の企画として科学館や公民館、学校、商業施設などで実験ショーや工作実験を実施することで、理科と触れ合う機会を提供する。また、オンラインツールやSNS を活用して、オンライン形式でイベントを実施する。これらの科学イベントを通して理科離れを防ぎ、人と科学、人と人をつなげる。

◆学びのテーマ

積極的に互いの意見を交換し、チーム全体で協同する方法を学ぶ

◆１年間の達成目標

理科離れを防ぎ、科学の楽しさを通して人と人とのつながりをつくる

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	除村典子（工学部応用化学科３年）
サブリーダー	山崎裕斗（工学部応用化学科３年）
広報リーダー	松永一真（工学部生命化学科３年）
会計	野元涼（理学部化学科２年）
アドバイザー	岡田工（理系教育センター）
	長田和也（理系教育センター）
コーディネーター	齊藤祐子（サイエンステクノロジーカレッジオフィス）

・・・メンバー数 25 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～世界一行きたい科学広場～

10 月 22 日 (土) に実施した「世界一行きたい科学広場」では、子供たちが楽しめる実験広場を開催した。当プロジェクトでは「光の実験ショー」と工作教室として「くるくるステンドグラス」、「人工いくら」を実施した。また、実験ショーとして工学部応用化学科・秋山先生、理系教育センター・岡田先生にお願いし、感染予防対策として Zoom を用いて別室にて中継した。政治経済学部・青木先生に「形の不思議を体験しよう」、工学部応用化学科・吉田先生に「見えない放射線を見てみよう！！」を出展していただいた。
「光の実験ショー」、「くるくるステンドグラス」、「人工いくら」には小学生を中心に多くの方が体験した。くるくるステンドグラスのブースでは、小学校低学年の参加者に工作の原理説明をする際、理解してもらうのが難しい場面があった。高学年と低学年の参加者で理解しやすいように説明の仕方を変えるといった対応をとる必要があると考えている。また、工作ブースの前に長い列ができた際に列整理がうまく出来ず、参加者を混乱させてしまった場面があった。次回はこのような状況に対応できるよう事前に準備し、プロジェクト内での情報共有を進めていきたい。

～東海大学生のサイエンス教室～

平塚市立松が丘小学校において 11 月 19 日 (土) に実施した「東海大学生のサイエンス教室」では、小学生を対象に実験ショーおよび工作ブースを実施した。参加者を４つのグループに分け、実験ショーと工作ブースを順番に周り、すべての企画を体験する形式をとった。実験ショーでは空気・真空をテーマとしたものを披露した。真空実験では音が鳴っている防犯ブザーを容器に入れ、真空状態にすることで音の聞こえ方はどのように変化するのかといった実験などを行った。工作ブースでは、人工イクラと「くるくるステンドグラス」という偏光板を使用した工作を実施した。体験終了後には、空気砲を用いたショーを行った。参加者は自分たちの作った工作物を楽しそうに観察していた。
今年度のイベントにおいて、本企画のような形式での実施は初めてであったため、予定通りの進行を行うことができなかった。そのため、今後の活動では、適切なタイムスケジュールの設定を行う必要があると考えた。
最後に行った空気砲を用いた実験ショーでは小学生だけではなく、付き添いの保護者の方々にも非常に喜んでもらうことができ、良い経験となった。

湘南 キャンパスストリートプロジェクト

◆活動概要

本プロジェクトでは東海大学の周辺地域の方々に貢献する、街を盛り上げる目的でイベント活動、ボランティア活動に力を入れている。また、メンバー一人一人が電話やメール、外部の方との話し合いを通じて、正しいマナーを身につけるなど社会的実践力の向上及び４つの力の修得を目的としている。プロジェクト活動内で、自らが企画立案、皆と協力してイベントを運営することにより、メンバーが幅広い視野を持つ力を育むとともに地域活性化を実現する。

◆学びのテーマ

地域との関係を個々の力で構築していくことから、交渉やメール、電話対応などといった、学生として人と話す基本的な能力を学ぶ

◆１年間の達成目標

ボランティア活動団体として自分達の活動を必要としている方々への手助けとなる。また、イベントを通して地域活性化に貢献する

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

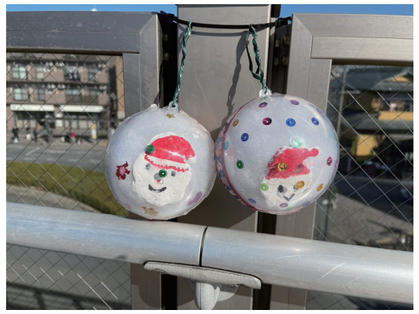
リーダー	豊田雅之（工学部土木工学科２年）
サブリーダー①	成重太陽（政治経済学部経済学科２年）
サブリーダー②	齊藤伽空（文学部文明学科２年）
広報リーダー	宮本久徳（工学部機械工学科２年）
会計	諸橋要（工学部材料科学科２年）
アドバイザー	池谷美衣子（スチューデントアチーブメントセンター）
コーディネーター	岩崎ゆかり（キャンパスサポートオフィス）

・・・メンバー数 21 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

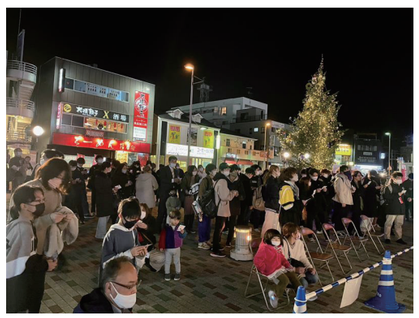
～プロジェクト実践（授業）～

地域の特色、魅力を知ることを根底にメンバー個人の社会的実践力（マナー）を身につけることを目的として開講された。前者の“地域を知る”というものは、メンバーが理解することはもちろん、それを相手に伝えることができるようSNS やレポートといった媒体を用いて自身の持つ考えを発信した。後者の社会的実践力ではプロジェクトでのマナーではなく社会人として備えておかなければならない言葉遣いであったり、メールや電話の対応、名刺交換などアドバイザーやコーディネーターの指導のもと実践を行った。メールや電話対応は学内の方であると慣れてしまって気持ちが緩んでしまう可能性があるため、駅前商店会の方々に協力していただき実際の緊張感を含め経験をさせてもらった。初めての言葉遣いといったものは慣れないものであるため、この活動を通して当たり前にできることを当たり前にやるといった自信を習慣化させた。また、自分の考えを相手に伝えるといった点も経験を重ねないとできないものであるため実際にプレゼンしてみて慣れておくといった点も挑み力、自ら考える力の向上につながった。



～クリスマス U-night2022 ～

駅前広場での陸橋、ツリーのライトアップをはじめとした地域参加型イベントを実施した。これは小さな子から大学生、大人まで幅広い年齢層で楽しんでもらうため、各年齢層に合った企画を実施した。例年とは違った外部の方を招待してライブを実施する、企業様と協力して景品付のビンゴ大会を実施する、他団体と協力してワークショップを企画するなど、各々の考えが形となったイベントになった。そのため、計約 200 人ほどの来場者を動員することができた。このイベントを通して知らない人との交流や新しい企画を実施するといったことで「自ら考える力」「挑み力」「コミュニケーション能力」の３つを伸ばすことができたと実感している。また、駅前商店会の方からはコロナの影響でできていなかったことが再開できたと感謝の言葉をいただき、また来年も実施してほしいとの依頼を受けた。本プロジェクトでは地域活性、地域貢献は何をしたら達成したといえるのかわからないまま活動していたが、このように地域から求められる存在であること、感謝される活動をすることが地域活性、地域貢献につながっているのだと考えた。



湘南 Tokai Formula Club

◆活動概要

Tokai Formula Club は 2002 年に学生フォーミュラ日本大会への参加を目的として設立され、2004 年度日本大会に参戦して以来、毎年日本大会に参戦してきた。学生フォーミュラは、学生がレーシングカーづくりを通して、ものづくりの総合力を競い、自動車技術ならびに産業の発展・振興に資する人材を育成することを目的とした大会である。本年度は 2019 年度以来 3 年ぶりに開催された第 20 回学生フォーミュラ日本大会への参戦を果たした。

◆学びのテーマ

学生フォーミュラ活動を通して社会に貢献できるエンジニアであるために必要な技術力とコミュニケーション力を学ぶ

◆１年間の達成目標

第 20 回 学生フォーミュラ日本大会 2022 参戦

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

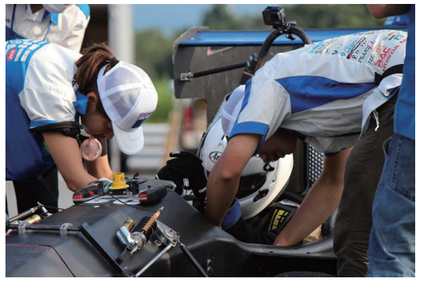
リーダー	越智虎太郎（政治経済学部経済学科２年）
サブリーダー①	佐々木拓未（工学部動力機械工学科３年）
サブリーダー②	矢野直樹（工学部動力機械工学科３年）
広報リーダー	益谷祐貴（工学部動力機械工学科３年）
会計	小畑龍紀（工学部動力機械工学科２年）
アドバイザー	加藤英晃（工学部機械システム工学科）　成田正敬（工学部機械システム工学科）
	吉永昌史（工学部機械システム工学科）　高橋俊（工学部機械システム工学科）
	森下達哉（工学部機械工学科）　森山裕幸（工学部機械システム工学科）
コーディネーター	関根啓由（エンジニアリングカレッジオフィス）

・・・メンバー数 54 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～富士スピードウェイ走行会～

8 月 22 日に富士スピードウェイの駐車場を借り、他大学を招いて走行会を実施した。我々は前回の三支部合同走行会での反省を踏まえ、車両の改修、ピット内レイアウトの改善などを行い、この走行会に臨んだ。
現地到着後、他大学が続々と車両の準備を終え暖機をする中、我々は長い時間を整備に充てやっとの思いで走行させることができた。
この走行会は、我々が主催をした走行会であったため、前日の設営から当日の運営、走行会終了後の撤去まで一貫して我々主導で行った。大きな問題こそ起こらなかったもの、全般的に時間から遅れがちであり、前日の設営は特に予定より遅れるなど反省点は多い。
この富士スピードウェイ走行会での走行が、我々が製作した車両の初めての走行であった。ここで一旦これまでの頑張りが報われたことで、個々人のモチベーションが大きく向上し、これ以降はプロジェクトの士気が上がった。これまでは、一部のメンバーが積極的に活動をし、その他のメンバーは消極的であった。部品の製作や組み立て、走行前の準備などでも、動いているメンバーの数が増え、発言や提案も増えた。



～富士スピードウェイカースワップ～

10 月 16 日に富士スピードウェイでカースワップを行った。これは他大学との交流とお互いの車両の乗り比べ、情報交換の場として企画した走行会で、静岡理工科大学、東京都立大学、千葉大学、大阪大学、工学院大学を招いて実施した。第 20 回学生フォーミュラ日本大会中に様々な大学に声をかけ、当初は上記以外にも多くの大学から参加希望があったが、企画を始めたのが遅かったことで詳細を伝えることが出来る前に参加希望を取り下げる大学が出てしまったり、複数校のドライバーで複数校の車両を乗り比べる際に混乱が発生するなど改善が求められる一方、以前より交流のなかった大学とも交流が果たせ、普段乗ることのない他大学の車両に乗ることが出来たのは大変良い経験となった。特に、今回の参加校で唯一の電気自動車を製作した静岡理工科大学や大阪大学と交流できたことが有意義であったと振り返る。
反省点も多くあるが、前日準備、当日の運営に関してはこれまでから改善しており、時間の遅れの減少、前回はできなかった１つのコースで２台の車両を走行させるなどの進歩が見られた。

湘南 東海大学ソーラーカーチーム

◆活動概要

各大会に出場して最高の記録を樹立するという目標に向けて、日々自分たちの手で製作を行う。また、コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、可能な限り対面での地域イベントを企画、実施し、ものつくりに触れてもらう。これらの活動を通して、ソーラーカーを通じて創エネ・省エネの魅力を多くの人に伝えていくことで社会に貢献していく。

◆学びのテーマ

メンバー同士がお互いを尊重し、チームとして協力する大切さ、創エネ・省エネについて学ぶ

◆１年間の達成目標

ソーラーカーや電気自動車を設計開発・製作することでものつくりの楽しさや難しさについて学び、2019 年以来の国際大会への参戦に向けチーム力・技術力の向上を図る。また、対面の地域貢献活動を複数回実施し、ものつくりの楽しさや創エネ・省エネ技術について考えてもらう機会を増やす。

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	宇都一朗（工学研究科電気電子工学専攻１年）
サブリーダー①	岡村高徳（工学部動力機械工学科３年）
広報リーダー	安齋空（工学部電気電子工学科３年）
会計	梅田雄大（工学部電気電子工学科３年）
アドバイザー	木村英樹（工学部機械システム工学科）
	佐川耕平（工学部機械システム工学科）
	福田紘大（工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻）
コーディネーター	村井健太郎（スチューデントアチーブメントセンター）

・・・メンバー数 83 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～ World Green Challenge 2022 ～

この大会はソーラーカーの国内大会として毎年８月に開催されている。東海大学ソーラーカーチームはコロナウイルスの影響で海外大会に参戦できず、2021 年大会から２年連続で参戦した。2021 年大会は初出場でありながらも、レース状況を想定した様々な練習を重ねるなどして無事に総合優勝を獲得した。今年の大会は昨年と同様、様々なレース展開を想定した練習を重ねて挑んだが、最終日に他チームとの接触によってソーラーカーを損傷させてしまった。しかし、レース経験のない 1、2 年生も含めチーム一丸となって約 1 時間の修復作業を終わらせソーラーカーをレース復帰させた。この修復作業によって、一時は 2 位になるも最終的に総合優勝を獲得し２連覇を達成した。
この大会には、海外大会だけではなく国内大会すら経験がない 1、2 年生メンバーを遠征メンバーとして多数選出した。これは 2023 年のオーストラリア大会に向けてレース経験を積んでもらう意味を込めていた。クラッシュという経験したことのない不測の事態でもチームは諦めることなく冷静に対処し優勝できたことは 2023 年のオーストラリア大会に向けて良い経験となった。

～工作体験・ソーラーカーの乗車体験（ららぽーと湘南平塚）～

三井ショッピングパークららぽーと湘南平塚にて、小学生を対象にしたソーラーカーの簡易キットの工作体験・ソーラーカーの乗車体験イベントを実施した。このイベントは 1、2、3 年生を中心に企画から必要物品の準備、当日のイベント運営まで行った。特に工作体験に向けて小学生に分かりやすく説明する方法や分かりやすい資料の作成などの準備に時間をかけた。
夏休み直前の時期の開催ということもあり、夏休みの宿題の自由研究にもなるということで朝から多くの人が訪れ、工作体験には 40 名、ソーラーカーの乗車体験には約 200 名の小学生に参加して頂いた。
ソーラーカーに関する質問は小学生だけではなく、多くの親御様からも質問いただき、興味を持っていただける企画を実施できたと考える。また、８月に開催されたソーラーカーの国内大会「World Green Challenge 2022」の直前の開催ということもあり、２連覇に向けた応援の声も多く頂いた。このイベントで他の商業施設などからの展示の依頼をいただくなど、今後の社会貢献活動に幅を広げることができた。

湘南 東海大学人力飛行機チーム TUMPA

◆活動概要

私たち人力飛行機チーム TUMPA では、人力飛行機を設計・製作することでものつくりについて学び、鳥人間コンテストやHPA 飛行会へ出場し、優勝を目指している。また、大学近隣の地域社会にものつくりの楽しさや飛行機の魅力を伝える活動を実施している。この他にも、機体の展示活動を行うことで社会に貢献する活動を展開している。

◆学びのテーマ

メンバー全員が課題に主体的に向き合い、解決・達成に向けて挑戦する

◆１年間の達成目標

人力飛行機を設計･製作することでものつくりについて学び､鳥人間コンテストやHPA飛行会へ出場し､優勝を目指すと同時に､ものつくり教室などを通して、大学近隣の地域社会にものつくりの楽しさや飛行機の魅力を伝える。

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	大西亮平（情報通信学部情報通信学科１年）
サブリーダー	内田汰一（工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻１年）
広報リーダー	若井萌恵（工学部医工学科１年）
会計	秋葉流成（工学部動力機械工学科３年）
アドバイザー	福田紘大（工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻）
	池田知行（工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻）
コーディネーター	平島滋義（スチューデントアチーブメントセンター）
	米岡寿（エンジニアリングカレッジ）

・・・メンバー数 14 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～第６回テストフライト～～

鳥人間コンテスト後、初のテストフライトを富士川滑空場にて行った。テスト項目として滑走、ジャンプ、定常飛行を行った。試験結果として、定常飛行に成功し、機体の機速、高度、プロペラの回転数、ロール情報等のデータを取得した。テストフライトに併せて機体の組み立ての手順確認を行った。今回のテストフライトは機体に大きな損傷を与えることなく終了することができた。
この企画を選出した理由としては、チームとして３年間達成できていなかった定常飛行を達成できたからである。今年は鳥人間コンテストへの書類選考に合格したものの、安定した飛行を達成できなかったため、出場を辞退し、チームとしても大変悔しい結果となった。しかし、出場を逃した後も機体の調整を続け、今回の結果を得ることができた。人力飛行機を作るチームとして、自分たちの機体が飛行した喜びは言葉では言い表せない。プロジェクトメンバーが一丸となり、失敗や試行錯誤をくりかえし努力したことが、今回の結果に結びついたのだと考えている。今後はより長い時間および距離を飛行できるよう、新機体の製作、調整を行い、滑走路の端から端まで飛行することを目標とし、テストフライトに臨みたい。

～ものつくり教室（東海大学附属甲府高等学校）～

いままで人力飛行機チーム TUMPA では、未就学から小学校低学年を対象にしたものつくり教室を行ってきた。しかし今年度は、対象とする年齢層を広げ、より多くの人に人力飛行機やものつくりの魅力を知ってもらいたいと考え、東海大学付属甲府高等学校と連携し、授業の一環としてものつくり教室を行った。高校生向けということで、高校生が楽しみながら飛行機への理解が深まるように内容を一から見直したことにより、生徒の反応もよく、先生方からも次年度以降も開催していただきたいとの好評を得ることができたので、次年度以降も継続して開催していきたいと考えている。
一方で、初めて高校生を対象としたため、例年行なっているものつくり教室よりもクオリティーが落ちてしまった。特に、高校生が理解がしやすいよう物理公式などを利用し説明したが、対象クラスが物理を履修しておらず、理解しづらくなってしまった。今後は、先生方とより密に連絡を取り合うと共に、今まで行っていた物理などを知らない小学生に向けた飛行機の説明を併用しながらよりわかりやすい説明を行いたいと考えている。

湘南 東海大学学生ロケットプロジェクト

◆活動概要

通年を通し、ハイブリットロケットの開発と運用を行っている。燃焼班・構造機構班・計測制御班の３班に分かれ、日々ロケットの開発を行う。開発部品の性能評価を行い、打ち上げ時のロケットの安全性を確保している。ロケット打ち上げの計画を立て、検討、議論し、製造スケジュールを作成し、打ち上げ締切に間に合うよう日々切磋琢磨している。

◆学びのテーマ

団体メンバーが一丸となって手を取り合い、問題に実践し、議論し合い、やり遂げること

◆１年間の達成目標

団体の立て直し、確実な打ち上げ実績を確立すること

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	岡崎智哉（工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻３年）
サブリーダー①	黒田大貴（工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻３年）
サブリーダー②	北見菜穂子（工学部動力機械工学科３年）
広報リーダー	古郡和眞（工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻３年）
会計	浅野和哉（工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻３年）
アドバイザー	那賀川一郎（工学部航空宇宙学科）
	森田貴和（工学部航空宇宙学科）
コーディネーター	宮西宏明（サイエンステクノロジーカレッジオフィス）

・・・メンバー数 66 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～グローカルフェスタ～

グローカルフェスタが地域住民を対象に学内の活動を広く知ってもらうことを目的として行われるということで、当団体では以下を実施した。当団体は、４号館前の広場を展示会場として、過去に打ち上げたロケットを実際の打ち上げで使用するランチャー台に設置して展示、各コンポーネントの説明、過去の打ち上げ実験の動画紹介を行った。我々の想定としては、オープンキャンパスのように展示が素通りされるものとして、大きな期待をせず、展示内容も最低限で行った。しかし、実際のところ、未就学児や小学校低学年の子どもたちが多く展示に興味を持ってくれた。特に、過去の機体を実際に持ってもらい、ロケットを体感するといった取り組みは、保護者からも好評を頂いた。団体メンバーは、初めて広報活動の意義を理解し、その重要性を己の中に噛み締めた。
反省点として、現メンバーで過去のグローカルフェスタに参加した者がいなかったために、その温度感がわからず、来場者に不親切な展示及び、説明になってしまった事が挙げられる。来年のグローカルフェスタでは、もっと幅広い年代に興味を持ってもらえるような展示を実施していきたい。

～冬期大樹町打上実験～

当団体は、ここ３年ほどロケットの打ち上げを行うことができていなかった。そして、今期ようやく打ち上がろうという所まで来ている。そんな中、コロナ禍によって我々は、まだロケットの打ち上げ実験をしたことがなく、どのようにして準備を進めていけばいいのか、どのようなことをしなければいけないのかと日々考え、議論し合い、どうにかその期限に間に合うよう努力してきた。
また、今回のロケットを確実に打ち上げられるように、複雑な部品や部位の簡易化、新規開発、軽量化を促進した。そのおかげか、一部のコンポーネントがスケジュールから遅れてもどうにか間に合わせることが可能となった。
この文章を書いているのは、ロケットの打ち上げ実験を行う前であり、結果を記すことができない。しかし、３年以上、ロケットを打ち上げられなかったという結果に対して、なんとか打ち上げようとメンバー同士が努力し、成長し、全体で注視してきた活動である。結果を記すことができないのは悔しいが､我々にとって新たな出発点となった年間活動であるため、来年度以降の活動に期待してほしい。※後日、打ち上げ実験を成功しました。

湘南 Tokai International Communication Club

◆活動概要

多文化共生社会に向けて、以下の３つの企画を行う。
①Foreign Students Communication: 留学生と日本人学生の交流
②にこティー教室：外国にルーツを持った子供たちへの学習支援
③異文化理解ワークショップ：異文化理解を深めるために地域の人々を対象にした勉強会や、世界の文化を知ってもらうためのイベント

◆学びのテーマ

各企画の垣根を越えて、多文化共生について学び、様々な交流を通じて意見、価値観を共有し合う

◆１年間の達成目標

「多文化と関わる魅力」を多くの人に知ってもらう機会を積極的に設ける

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	高橋孝太朗（教養学部国際学科３年）
サブリーダー①	有馬雄一郎（文化社会学部心理・社会学科３年）
サブリーダー②	板垣華凜（文化社会学部心理・社会学科２年）
広報リーダー	落合真輝（工学部動力機械工学科３年）
会計	江口妙（文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科３年）
アドバイザー	田口香奈恵（語学教育センター　留学生支援教育部門）
コーディネーター	雨木秀文（スポーツプロモーションセンター）

・・・メンバー数 100 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～翰林日本語学院との交流会～

本企画は、2022 年７月 29 日に横浜市にある、翰林日本語学院という主に外国人に対して日本語を指導する学校の生徒との交流会を実施した。会場は翰林日本語学院の校舎を用い、翰林日本語学院の生徒とは主に日本語や英語を使って、けん玉や書道、だるま落としといった日本の伝統的な文化や遊びを通して、言語学習を主とした交流を行った。
本企画が TICC メンバーの参加人数が最も多く、また前年度より実施を目指していたものの、コロナの影響なども相まってなかなか実現に踏み切れなかったこともあり、十分な準備期間と高い意識のもと交流会を行うことができた。
活動結果として、交流相手の言語学習の補助や、お互いの文化の理解の促進、TICC の広報活動の助長などを成すことができた。
また反省点は、当日の会場の状況や実施した日本の伝統的な遊びなどに対する理解の浅さから、円滑な進行に支障をきたす場面が多々あった。コロナ禍などにより、情報収集や事前の対面での遊びの実施方法の確認などが難しい状況にあったものの、しっかりとした下準備や情報の確認などを行っていきたい。

～にこティー教室～

本企画では、秦野市に住む外国にルーツを持つ子供たちへの学習支援を行った。“はだの子ども支援プロジェクトゆう”という地域の市民団体と協力し、水曜日と木曜日の週２回、秦野市の公民館で毎週実施した。
外国にルーツを持つ子供たちとは、親が外国人であったり、外国出身の子供たちのことであり、多くの場合、言葉や文化の問題を抱えている。そのため、そういった諸問題に対処することを目的として、小学生に対しては、宿題の手伝いや会話練習も兼ねた遊び、中学生に対しては、課題の手伝いや受験勉強のサポートなどを行った。活動結果として、支援対象となる子供たちの学習全般のサポートや、交流の場の創出といったものを成すことが出来た。
また、オンラインが主流だった 2021 年度とは異なり、本年度は対面の活動が主体となったことから、当初は戸惑いや支援メンバーがなかなか集まらないといった諸課題などを抱えていたものの、本プロジェクトの発足元となった企画ということもあり、過去の活動記録などを十分に活かし、長年の活動で培ってきた経験や知見をもとに対処することができた。

湘南 3.11 生活復興支援プロジェクト

◆活動概要

東日本大震災の発生から 11 年以上が経過した東北の被災地では、復興が進められてきている。しかし、震災の発生から長い時間が経過した現在、復興支援活動のあり方が改めて問われている。さらに、震災の風化防止や防災の重要性も高まっている。
本プロジェクトは、東北の被災地における様々な復興支援活動の展開、東北の魅力発信、東日本大震災の風化防止活動および防災啓発活動を目的に活動を行っている。

◆学びのテーマ

チーム、メンバー内での協力関係から企画を作り上げ、社会の中で共同することがどのようなことであるかを学ぶ

◆１年間の達成目標

新しい「3.11 生活復興支援プロジェクト」の時代を築き上げるための活動を、時代に合ったやり方で地域や社会に浸透させる

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	後藤悠太（情報理工学部情報科学科３年）
サブリーダー	橋本泰（観光学部観光学科２年）
広報リーダー	水上優花（教養学部人間環境学科社会環境課程３年）
会計	由上周吾（工学部生命科学科３年）
アドバイザー	浅井亜希（文化社会学部北欧学科）
コーディネーター	石原潔（キャンパスサポートオフィス）

・・・メンバー数 28 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～ 3.11LCP ワークショップ～

今年度新たな試みとして実施し、全プロジェクトメンバーを対象に５月から６月にかけて全４回実施した。本企画は本プロジェクトの一番初めの活動に位置づけられているが、コロナ禍で実現できていないメンバー同士が顔を合わせて交流する機会の提供、本プロジェクトの活動内容についての理解促進、そして今後の活動への弾みをつけることを目的に新しい挑戦の一環として実施した。第１回は「メンバー交流会」、第２回は「10 年史レクチャー」、第３回は「東北と東日本大震災を考える」、第４回は「災害と防災を考える」をテーマに全て対面・オンライン併用で実施した。また、各回ではグループワークの時間を設け、他のメンバーと各テーマに関する意見交換を行った。本ワークショップを通して、今年度新たに加入したメンバーを含む多くのメンバーと直接顔を合わせて交流できたため、プロジェクト活動に馴染んでもらい、今後の活動を円滑に進めるための土台作りができた。また、本ワークショップを４回開催したことにより、メンバー同士の関係構築、プロジェクトの活動内容や東北震災、防災などに関する理解を深めることができた。

～令和４年度「大学生の力を活用した集落復興支援事業」福島県伊達市富成地区 現地調査～

福島県が主催する「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に今年度より参加し、福島県での新たな挑戦をスタートした。本プロジェクトは伊達市富成地区を担当することになり、今年度は実態調査を実施した。調査の一環として、11 月に本地区を初めて訪問し、２日間の日程で現地調査を実施した。調査１日目は富成地域まちづくり振興会の皆さまとの顔合わせを兼ねた打合せ、特産品試食会、地域散策を実施した。調査２日目は富成地区の住民の皆さまおよび福島県、伊達市の担当者も交えた意見交換会、伊達市特産のあんぽ柿を生産している農家様での現場体験を実施した。本調査では、地区の皆さまと交流し、本地区の理解をより深めることができた。また、本地区の皆さまの温かさや自然、農業といった多くの魅力に触れることができた。本調査の成果としては、地域住民の地域活動への関心の低さや、高齢化などを背景とした様々な活動への影響などといった課題を発見することができた。本調査では多くの学びや経験をすることができ、本プロジェクトの未来を切り拓く第一歩を踏み出すきっかけづくりにすることができた。

湘南 Beijo Me Liga

◆活動概要

Beijo Me Liga の活動目的としては学校訪問を含めた外国にルーツを持つ子供たちとの交流をもとに彼らの視野に対し少しでも影響を与えることにある。概要としては、外国にルーツを持つ子どもたちとの交流をするべく実際に学校へ足を運び交流を行う他に、我々が開催しているマルチカルチャーキャンプやイベントへ招待し普段触れることのできない文化や体験をしてもらうことで彼らの世界に良い影響を与えることである。

◆学びのテーマ

多文化共生について学び、自分たちにできることは何か、どのようなことがあるのか考え実施する

◆１年間の達成目標

子どもたちと共に輝くために、多くのイベントやマルチカルチャーキャンプなどを通じて多く関わり自分たちも含めて成長できるようにチャレンジする

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	大島巧（健康学部健康マネジメント学科３年）
サブリーダー①	木村琉人（工学部土木工学科３年）
サブリーダー②	山崎綾音（教養学部国際学科２年）
広報リーダー	花木颯士（理学部物理学科３年）
会計	竹蓋健太（政治経済学部政治学科３年）
アドバイザー	小貫大輔（教養学部国際学科）
コーディネーター	浅利典江（スチューデントアチーブメントセンター）

・・・メンバー数 173 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～募金活動～

子どもたちが遊園地に行った際に、学生証を指示していないことから学割が適応されず、学生である子どもたちが正当に評価されていない状況に疑問を抱き、学生証発行のため目標金額を５万円として一週間募金活動を行なった。
募金活動にあたり、それぞれのメンバーに役割を細かく振り分け、秦野駅周辺、東海大学前駅周辺、海老名駅周辺担当に分け、それぞれ警察に申請して活動を行なった。活動の広報も兼ねると考えていたので、新入生にも積極的に参加してもらい、自分達の活動をより深く理解してもらえるようミーティングや募金活動の際に活動理解が深まる会話をした。
結果的には１０１,５５７円のお金を集めることができ、チームとしても自身の活動内容の理解が深まる時間を過ごすことができた。さらに、人を巻き込むことの難しさや、人の優しさを肌で実感することができ、思い描いたことを行動に繋げて成し遂げるという経験を新入生も含めチーム全体で経験できた。また、学生証自体はまだ発行まで着手できていないので、経理や運営などの経験として後世にも受け渡せるような形体を明確に整えてから実行することとした。

～大学でのフェスタジュニーナ～

コロナ禍で子どもたちが自身のルーツに疑問を持っているという課題を受け、日本にても自国の文化体験ができるような空間を作りたく、本大学でブラジルの伝統的な収穫祭を模したイベントを実施した。感染対策をしっかりと行なった上で、伝統的なイベントということで雰囲気を着実に表現するために小道具作りに力を入れた。積極的に新入生に仕事を割り振ってチーム全体で約１ヶ月程度準備を手掛けた。当日の運営は見通しが立ちにくい面もあったが、来場者に不快を与えないようにチームで連携して感染対策や熱中症対策などを中心に負傷者等を出すことなく徹底することができた。結果的には、来場者の全員から感謝のお言葉や、楽しんでいる子どもたちの笑顔などを見ることができ、より良い時間を作ることができた。しかし、集客目標を最大収容人数の８０人と設定して活動していたが、大幅に上回ってしまったことや、情報伝達不足による車両問題など大盛況であった反面、非常に反省すべきことが山積みになる活動になった。今後は同じ過ちを繰り返さぬよう情報の伝達と共有に最善の注意を払うということをあらためて痛感した企画となった。

湘南 Tokai Dream Space Team

◆活動概要

現在の社会では、新たな物事に挑戦し、確実な成功に結び付ける人材が広く求められている。そこで我々は、小学生から社会人まで幅広い世代を対象にした「ものつくり･プログラミング」教育イベントを企画･開催する。「ものつくり」「プログラミング」「プロジェクトマネジメント」「S＆MA」という観点から、イベントの参加者にもものつくりを楽しみながら、成長を実感できるような企画・運営を行う。

◆学びのテーマ

ものつくり、プログラミング、チームビルディング、チームワーク、プロジェクトマネジメント、S＆MA、DX

◆１年間の達成目標

企業、地域との連携で小学生から社会人を対象とする ICT ものつくりイベントを成功させる

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	菜花純平（工学部精密工学科２年）
サブリーダー	木村一葵（工学部土木工学科２年）
広報リーダー	菜花純平（工学部精密工学科２年）
会計	野元潤（工学部応用科学科２年）
アドバイザー	岡田工（理系教育センター）
	白澤秀剛（理系教育センター）
	日比慶久（教養学部人間環境学科）
コーディネーター	喜友名浩史（ビーワンオフィス）

・・・メンバー数 39 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～ IWRC2022　light ～

IWRC はマイクロコンピュータなどのミッション機器を搭載したペットボトルロケットの打ち上げを行う高信頼性ものつくり体験イベントである。参加者にはミッションを設定してもらい、そのミッションの挑戦性と安全信頼性が両立できているか TDST は判定した。参加者は合計 15 人、5 チームがそれぞれ作成したペットボトルロケットの打ち上げを行った。
今大会ではランチャーの動作確認、競技大会進行、打ち上げシークエンスの確認・アナウンス、参加者の誘導・受付、保安を行った。また、全チームの打ち上げが完了した後、ミッションの審査を行い、２チームが優秀賞を授与したことを TDST の HP にて発表した。
今大会の反省点としては、競技大会進行中に２チームの空気漏れが起きてしまった。原因を調べたところ、参加者の機体に不備があったことで空気が漏れてしまい、進行に遅れが生じてしまった。これは、去年のランチャー担当が起こりえるトラブルを伝え損ねてしまっていたことに加え、十分なリハーサルが行えていなかったからだと考える。今後はこのようなことが起こらないよう、十分なリハーサルと、トラブル対処の練習を行いたい。

～ランチャー試験～

IWRC2022　light の大会規定を設定するにあたり、ランチャーの動作試験を行った。この企画では規定を作るためにランチャーの性能を今一度把握すること、改修した空気抜きの動作チェック、新しく入ってくれたメンバーが大会中にランチャーを操作できるようになることを目的とした。ランチャーは同じペットボトルロケットを 15 度、30 度、45 度、それぞれ３気圧、６気圧、９気圧と大会に沿った組み合わせで打ち上げた。
この試験では 2021 年度から性能は劣化していなかったことが分かり、問題なく大会規定に加えることができた。また、空気抜きも問題なく稼働した。新しいメンバーについてはそれぞれのシークエンスの注意点を１つ１つ丁寧に確認し、実際に経験者がやって見せた。また、新メンバーにもランチャーの動作を行わせ、理解を深められるように促した。この企画では課題の発見力を養い、ラーニングピラミッドから基づいた、他の人に教える・自ら体験するといった学習をすることができた。また大会当日ではリハーサルが足りていないのか、遅れが生じてしまったが、上記学習をした動作は全体を通してみてもスムーズに行うことができた。

湘南 Egyptian Project

◆活動概要

主に遺物整理を中心に活動する。注記・仕分け・撮影作業を行うと同時に遺物の取り扱いや、その遺物がどういったものなのかについて学ぶ。教育普及を目的としてワークショップも企画・実践する。活動内容を広く知ってもらうために SNS を使った宣伝活動も行う。２か月に１度の勉強会では互いに不足した知識を補い合い、興味を持った事柄についてより深く追求する。得た知識は共有して記録に残す。活動はこれらを柱にして行う。

◆学びのテーマ

知識を深め、それを活用する力と外部に伝える力を養う

◆１年間の達成目標

活動を通してインプットした知識を学内・学外のイベント等の様々な形で外部に広めていく

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	加藤彩奈（文化社会学部アジア学科３年）
サブリーダー①	川島愛子（文化社会学部アジア学科３年）
サブリーダー②	村上典（文学部歴史学科考古学専攻３年）
広報リーダー	川崎慶太郎（文化社会学部アジア学科２年）
会計	木田遼世（文学部歴史学科考古学専攻３年）
アドバイザー	山花京子（文化社会学部アジア学科）
コーディネーター	芹沢利尚（ヒューマンソサエティカレッジオフィス）

・・・メンバー数 22 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～古代エジプトをつくろう～

８月１０日に秦野市立大根公民館で小学生 20 人を対象にワークショップを行った。具体的には古代エジプトに関する講座、アヌビス神やメジェドといった古代エジプトに関するイラストを描いたアクリルキーホルダー作り、古代エジプトでも使われていたパピルス紙にヒエログリフを書く栞作りの体験を通じて、古代エジプトの魅力を知ってもらうことを目的に企画を行った。
当日までの準備期間ではメンバー内で係を分けて準備を行い、７月１９日には予行練習も行った。企画当日は、事前に決めた役割に分かれ、無事時間通りに終えることができた。
この企画を通じて、私たちは協調性の面で成長することができた。この企画は現在のメンバーになってから初めての大きな学外イベントだった。その中で、メンバーが各々で役割を持って参加し、成功することができたということは、企画の準備を進めるなかでメンバー間でのコミュニケーションが増え、協力して何かを成し遂げようという協調性が育まれた結果である。これらのことから、私たちはこの企画を通じて協調性の面で成長することができたと考える。

～グローカルフェスタ～

グローカルフェスタでは、ヒエログリフの消しゴム判子による栞作りと、練り香作りの体験イベントを行った。「古代エジプトをつくろう」のワークショップとは違い、より多数の来客が見込まれたため消しゴム判子にヒエログリフを予め彫り、来場者にはそれを押してもらうことで待ち時間短縮のための工夫をした。実際には想定よりもさらに多くの来場者だったため、イベント中に新たに列の整列・誘導係を作り、交代で栞用の紙を追加で用意することになった。
このイベントを通じて、私たちは思考力と対応力の面において成長することができた。まず思考力の面では、今年度初参加することになったこのグローカルフェスタというイベントはどんなものなのかというところから話し合い、各々が意見が出し合ったことで実感した。次に、対応力の面では、来場者が想定よりもかなり多いというイレギュラーな事態においてメンバー同士で声をかけあい、協力したことでイベントを最後までやり遂げることができたという点から実感した。このように、私たちはこのイベントを通じて思考力と対応力の面で成長することができたと考える。

湘南 学生相談窓口【little tree】

◆活動概要

本プロジェクトは、インターネット上で学生の交流・質問相談ができる「場所」を構築することを目標として活動する。LINE や Twitter などの SNS を活用し、学生が気軽に質問や相談できる場所を提供していく。集客や信頼度向上の為にも、定期的な情報発信も行っている。また、SNS での顔が見えない状態での質問や相談が苦手な方に向けて、ビデオ通話や対面での対応も行っている。

◆学びのテーマ

情報を精査し、的確に相手に伝える能力を学ぶ

◆１年間の達成目標

窓口活動の継続と拡大

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	井柳匠人（情報理工学部情報科学科４年）
サブリーダー①	河上奈月（情報理工学部コンピューター応用学科４年）
サブリーダー②	芝合優希斗（理学部数学科３年）
広報リーダー	芝合優希斗（理学部数学科３年）
会計	河上奈月（情報理工学部コンピューター応用学科４年）
アドバイザー	黒田輝（情報理工学部情報科学科）
コーディネーター	山砥慶成（リベラルエデュケーションカレッジオフィス）

・・・メンバー数 ３名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～ LINE オープンチャットでの質問・相談受付～

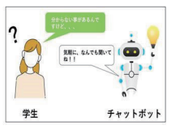
本プロジェクトのメイン企画である LINE オープンチャットでの質問・相談受付は、LINE のオープンチャットという最大５０００人が参加できるグループチャット機能を活用して学生からの質問・相談を募集し、大学に関する情報をグループ内で共有するという企画である。この活動は2020年から行っており、基本的に学生から来た質問に運営が受け答えをし、大学から来たお知らせをノートへ掲載するという活動となっている。
本企画の目的は、情報を共有すること、オープンチャット内の環境維持を行うことで、学生が困った際に頼ることのできる場所をネット上に構築することである。できる限り多くの学生に本企画を認知してもらい、東海大学生の学生生活をより豊かにすることを目標としている。
活動を始めた当初は、LINE グループを用いて活動を行っていたが、プライバシー管理や人数制限の問題から、LINE オープンチャットを用いた活動へと切り替えた。2022 年度の活動では、２月２日時点で 103 件の質問・相談を受け付け、オープンチャットメンバーは 23 名増加し１６４名となった。

～質問応答 AI の作成～

本企画は、学生から来た質問の一部を自動化させることにより、複雑な質問に回答することに注力できるようになることを目的とした企画である。目標として、運営が質問応答を行う際に活用できるシステムを構築することを目指す。具体的な数値として８割以上の正答率を目標達成とする。
企画発案の動機として、学生から来る質問のうち、５割が授業要覧、２割がシラバス、１割がメールによって公開済みの情報であった。その為、授業要覧とシラバスの情報であれば、AI に代用できるのではないかと考えた為である。
BERT、SQuAD 等の自然言語処理技術を用いた AI を活用し、研究を行った。学習させるデータセットを２つ用意し、東海大学情報理工学部授業要覧内の情報科学科の文章から作成した評価用 Q&A データセットを用いて、正答率で比較をした。学習後、１つのデータセットで正答率 68％の結果がでた。
結果として、目標値である 80％には届かなかったが、68％という比較的高水準の AI を作成することができた。今後は、正答率の向上とウェブやアプリへの導入を視野に入れて企画を進めていく。

活動内容

各種SNSでの質問応答



AIの作成

高輪 Takanawa 共育プロジェクト

◆活動概要

東海大学（高輪校舎）が高輪地区にとって必要な存在として認識してもらえるように、地域を盛り上げる活動をしていく。そのために地域の様々なイベントに積極的に参加・協力するだけでなく、主催イベントを企画・運営していく。また、高輪と湘南の２校舎を跨ぐプロジェクトのため、内容に応じて遠隔と対面を選択し、活動していく。これらの活動を通じて大学と地域の良好な関係を築き、「地域の活性化」を目指す。

◆学びのテーマ

地域貢献を通じて、学生としての社会との関わり方を学ぶ

◆１年間の達成目標

従来の活動を発展させることで、地域との繋がりを再構築する

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	平井菜々美（情報通信学部通信ネットワーク工学科３年）
サブリーダー①	湯浅龍馬（情報通信学部情報メディア学科２年）
サブリーダー②	島崎政人（情報通信学部情報メディア学科２年）
広報リーダー	東山真（情報通信学部経営システム工学科３年）
会計	三好瑠奈（情報通信学部経営システム工学科２年）
アドバイザー	佐藤弘幸（情報通信学部情報通信学科）
	星野祐子（情報通信学部情報通信学科）
コーディネーター	吉村敬太（グローバルシチズンカレッジオフィス高輪ブランチ）
	高橋直也（グローバルシチズンカレッジオフィス高輪ブランチ）

・・・メンバー数 37 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～ TAKANAWA HOP WAY ～

この企画は、高輪ゲートウェイ駅周辺で行う「品川開発プロジェクト」の一環として、周辺地域の協力のもと、ホップを栽培し最終的に高輪産のビールを作るといった JR 東日本主催の企画である。本プロジェクトとして今年度最も注力した活動である。ホップの栽培では、苗の植え付けから水やり、脇芽の剪定、追肥など、長い期間だったが多くのメンバーが積極的に参加し沢山のホップを収穫することができた。また、イベント参加者を集めた月に一度の交流会では、ホップの育成状況報告の他、高輪らしさを表現するためのビールの味決めや瓶に貼るラベルを決める投票などを行い、地域との交流を深めていった。交流会で紹介された高輪の有名スポットや穴場スポットをまとめた高輪地域を盛り上げるためのマップ作成にも携わり、新たな魅力を知ることもできた。
この活動を通して、JR の方をはじめ、イベントに参加している地域の方々や他大学の学生さんなど、高輪地区に関わる多くの方々と交流を行うことができた。さらに、ホップイベントだけでなく高輪ゲートウェイ駅で行われたイベントにも携わらせていただき、本プロジェクトの活動をコロナ禍後に活発化させる大きなきっかけとなった。

～子供向けイベント「TKP といっしょ」～

「TKP といっしょ」は、たかなわ子どもコミュニティカレッジの協力により実施した本プロジェクト主催のイベントである。主に未就学児から小学校低学年を対象としたイベントを企画・開催し、２年間継続して行っている。今年度は１回目を９月に開催した。当初の予定では、高輪校舎近隣の小学生を招き入れ、体を動かすようなスポーツ系のアクティビティを企画したが、コロナ禍の影響で、工作系のイベントを高輪子ども中高生プラザで行うことに変更した。
当日は近隣の小学生 12 名が参加し、楽しむ様子を見ることができた。イベント運営という観点から実施結果を振り返ると、子供が楽しめるイベントという点を重視しすぎてしまい、工作過程における時間が不足してしまった。その結果、最後の説明が駆け足気味になってしまったため、限られた時間内で目的を達成させる必要性について再認識した。今後、「TKP といっしょ」以外にも他団体と協力し子供向けのイベントを企画・運営を行っていくことを計画しているため、これらの経験を糧にし、子供とのコミュニケーション力の向上を図りたい。

伊勢原 Global Innovation Project

◆活動概要

何かやりたいことがある学生は、自身でミニプロジェクトを立ち上げ、メンバーに対しプレゼンを行う。これに共感したメンバーは、興味のあるミニプロジェクトに参加する。賛同を得た学内の教授や外部企業の協力のもと、学生主体で実践的な学習に取り組むことで社会問題の解決及びそれに必要な知識・経験・技術を、習得することを目指す。また、学部を問わず多様な学生が集まり、それぞれの強みを活かすことにより、横断的かつ共創的な活動の場を提供する。

◆学びのテーマ

社会問題の解決を目指したプロジェクトの遂行に必要な計画立案力・実践力を養う
学生主体で活動することで主体性やチームプレイを身につける

◆１年間の達成目標

SDGs を基盤として「ボランティア」「ものづくり」「産学連携」を行いたい学生を支援する
「なにかやりたい」けどできなかった人に、「なにかができる」環境を提供する

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	安島香帆（観光学部観光学科３年）
サブリーダー①	田村航大（情報通信学部経営システム工学科３年）
サブリーダー②	早川大地（政治経済学部経営学科２年）
広報リーダー	早川大地（政治経済学部経営学科２年）
会計	手塚雄理（工学部医用生体工学科２年）
アドバイザー	内田晴久（教養学部人間環境学科）　木村英樹（工学部機械システム工学科）　喜多理王（理学部物理学科）
	豊田雅夫（腎内分泌代謝内科）　二ノ宮リムさち（スチューデントアチーブメントセンター）
	西垣景太（健康学部健康マネジメント学科）
コーディネーター	田志口克己（メディカルサイエンスカレッジオフィス）

・・・メンバー数 58 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～ミニプロジェクトメンバー募集プレゼン～

このプレゼンは、ミニプロジェクト（以下、ミニプロ）が誕生するための重要な活動である。興味のある SDGs 項目はひとそれぞれであるため、自身が興味を持った分野に取り組むことができる GIP の独自の仕組みとして、ミニプロという仕組みを取り入れた。ミニプロの利点は、チャレンジプロジェクトやユニークプロジェクトとして至らなかったり、メンバーが集められなかったりと、「やりたいこと」があるにも関わらず成し遂げることができなかった人たちが、より審査難易度が低く、他ミニプロや教授、外部企業等による知識と経験のサポートを受けつつ、活動できるという点にある。また、「なにかやりたい」と思っていても何をすればよいか分からない学生や、既存のやり方や風習に捉われず新しいことをし続けたいと考えている学生にとっての、活動に取り組むきっかけづくりの場にもなる。これに加え、ミニプロでの経験や、多様な人々との交流が刺激となり、新たなミニプロ設立や交流が期待できる。このプレゼンにより、数々のミニプロが誕生した。

～ワークショップ～

秋学期から始まった授業の一環として、各ミニプロにワークショップを担当させた。内容は、はじめに全体に共通して自分たちのプロジェクトの活動紹介、その後各ミニプロで独自に企画したワークショップを行うという流れである。具体的には、SDGs×ART のミニプロが巨大手形アートの作成、SDGs×food のミニプロとプラスチック削減に関するミニプロが SDGs の問題提起とディスカッション、地域活性化に関するミニプロが双六を用いた近隣地域の紹介、SDGs× ものづくりのミニプロが粘土を使用した「あったらいいな」と思うツールの作成およびドローンの飛行実験である。アドバイザーであり授業の担当講師でもある二ノ宮リムさち先生の指導もあり、回を重ねるごとにミニプロの特徴を活かしたワークショップが開かれた。開かれたことで、自身の所属するミニプロ以外のメンバーとの意見交換ができ、多角的な視点を養うことができた機会であった。また、準備から当日の動き、片づけ、進行などのプランニングを行ったことで、今後イベントを行う際の基礎が身についたと考えられる。

清水 商品開発プロジェクト

◆活動概要

商品開発のプロセスを学ぶとともに地元食材や伝統料理を用いて地域活性化を目標として活動しています。一つのことにこだわることなく、「やってみたい」と思ったら新しく班をつくるなど、自由な活動スタイルが特徴です。市場調査や年に数回ある地域のイベントに参加することで、地域住民の方々との交流を深めながら次の活動へと繋げています。企業様とのやり取りを学生主体で進めていくため、普段経験することのないことに挑戦でき、自分の成長にも繋がります。

◆学びのテーマ

商品開発のプロセスを学ぶとともに成し遂げ力と集い力を鍛える

◆１年間の達成目標

商品の開発の成功及び販売の達成

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	両角史織（海洋学部水産学科生物生産学専攻３年）
サブリーダー①	森本紀海（海洋学部水産学科食品科学専攻３年）
サブリーダー②	和田直也（海洋学部環境社会学科２年）
広報リーダー	梅田真七葉（海洋学部水産学科食品科学専攻３年）
会計	古戸燦（海洋学部水産学科生物生産学専攻３年）
アドバイザー	後藤慶一（海洋学部水産学科）
	清水宗茂（海洋学部水産学科）
	浅川倫宏（海洋学部水産学科）
コーディネーター	大塩真由美（スルガベイカレッジ静岡オフィス）
	柴田祐希（スルガベイカレッジ静岡オフィス）

・・・メンバー数 38 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～ 2022 年度産業フェア～

当イベントでは今まで私たちが開発した商品の販売を行った。今回販売したものは黒はんメンチ・アカモク揚げ・潮カツオアイスの３つである。２日間での売り上げた数は黒はんメンチ 568 個、アカモク揚げ 154 パック、潮カツオアイス 56 個である。今回のイベントで直接お客様から値段や商品に対するご意見を多くいただけたことで、消費者のニーズを知ることができた。また、販売と同時に商品・東海大学・当プロジェクトの PR も積極的に行い、来て下さった方々に私たちの活動について知ってもらった。実際に興味を持っていただいた方や企業さん、他ブースの団体との交流も行うことができた。産業フェアには私たちの他にも多くの団体が出展していたため、市場調査も行った。ユニークな商品が多く、直接お話を聞いたことで今後開発する商品の参考になるお話しやアイデアをいただけた。最後に、この活動を通して多くの反省点・改善点を得ることができた。商品に関しては今回いただいた意見や消費者のニーズに合わせたものを開発していく。運営については仕事内容の共有、割り振り等の改善すべき点が明確になった。

～ 2022 年度静岡キャンパス建学祭～

海洋祭では、屋外ブースと屋内ブースに分かれて販売･宣伝を行った。屋外ブースでは、本プロジェクトで開発、商品化した「黒はんメンチ」「アカモク揚げ」、塩カツオアイスの「クールに潮カツオくん」を販売した。２日間の開催で「黒はんメンチ」は 400 個、「アカモク揚げ」は 50 パック、「クールに潮カツオくん」は 180 個販売し、完売した。販売を通して、学生や保護者の方に商品開発の存在や商品を知ってもらう良い機会となった。屋内ブースでは、主に商品開発の活動の宣伝をした。各班で開発を行っている商品に関する企画や、班での活動を紹介するポスターの展示を行った。マグロかるた班はマグロかるたを体験してもらう企画を考え、知識を身につけながら楽しむ時間を過ごしてもらうことができた。お茶班は様々なお茶のにおいを嗅ぎ分け、名前を当てるというゲーム形式で、お茶の幅の広さを感じることができる企画となった。その他にも各班の特徴を生かした企画で、プロジェクト全体及び班ごとの活動を宣伝をすることができた。海洋祭で学内に宣伝することができたと同時に、多くの人とコミュニケーションを取るきっかけができ、学びの多い活動であった。

熊本 先端技術コミュニティ ACOT

◆活動概要

今年度の活動は、新型コロナウイルスの感染拡大防止による活動自粛に伴い、制限されることが予想される。このような状況下においても、創意工夫を図り技術の習得や地域貢献活動を行うことで、問題解決能力を身につけることを目標とする。
主な活動として、熊本県警や他大学と連携したサイバー防犯ボランティア、ドローン空撮を行う。イベントへの参加許可が下りた場合のみ、感染拡大防止に留意し、イベントに出展や開催をする。

◆学びのテーマ

これからの社会で求められるスキルを自ら考え出し、技術の習得や地域貢献活動で実践することにより、それらのスキルを学び、身につける

◆１年間の達成目標

ET ロボコン出場やドローン訓練などで得た先端技術の知識を身につけ、それらを活かした社会・地域貢献活動を行う

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	後藤尚斗（基盤工学部電気電子情報工学科３年）
サブリーダー①	小泉思聞（基盤工学部電気電子情報工学科３年）
サブリーダー②	横井秀音（基盤工学部電気電子情報工学科３年）
広報リーダー	吉野博善（基盤工学部電気電子情報工学科３年）
会計	滝智徳（基盤工学部電気電子情報工学科３年）
アドバイザー	八尋剛規（文理融合学部地域社会学科）
	佐松崇史（文理融合学部人間情報工学科）
	福崎稔（文理融合学部経営学科）
コーディネーター	加藤潤一（フェニックスカレッジ熊本オフィス）
	六嘉孝裕（フェニックスカレッジ熊本オフィス）

・・・メンバー数 26 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～「サイテク祭」に参加～

多良木町青少年育成会議が、「理科や技術離れが危惧される中、青少年に様々なものづくりや体験活動を提供すると共に、未就学児から中高校生、大学生、大人という異年齢間の交流を図ること」を目的として３年ぶりに開催されたサイテク祭に参加した。ACOT では、ロボットプログラミング教室、ドローン操縦体験・展示、モーションキャプチャ体験の内容を出展した。
ロボットプログラミング教室では、参加者が本プロジェクトメンバーと共に、レゴロボットの各種センサやライントレース制御の仕組み、プログラミングの基本を学び、ライントレース制御のプログラミングに挑戦した。ドローンブースでは Tello の操縦体験や活動で使用するドローン機体や空撮映像の展示を行った。
イベントには児童・保護者合わせて 100 名以上が参加し、アンケートでは「プログラミングでロボットを動かすのが楽しかった」や「ドローン操作がおもしろかった」という感想をいただき、子供たちが意欲的に楽しみながらプログラミングやドローンなどの先端技術が体験できるブースとなった。

～サイバー防犯ボランティア「サイバー防犯講話活動」～

サイバー防犯ボランティア「KC3」は、熊本県警や熊本県内の他大学 (熊本県立大学、熊本学園大学、崇城大学) と協力して、SNS 上の違法・有害情報の発見及び通報を行っている活動である。この活動の一環として、小中高校生や保護者に向けたサイバー犯罪被害防止のための講話活動を行っている。今年度の活動では､東陵高校で「SNS の利用」に関する講話と麻生田小学校で「インターネットを利用する際の危険」に関する講話を行った。講話では、講義や普段の活動で得た知識を活かして、SNS の利用やインターネットの危険性について分かりやすく伝えた。
麻生田小学校での講話は、子供のインターネットへ投稿することへの抵抗感が少ないことへの不安や、親目線で子供がインターネットで何をしているのか分からないという不安からご依頼をいただいた。SNS などが身近になった社会において、子供たちがネット上での犯罪や被害に遭わないよう、今後も地域の人たちと協力し合いつつ､SNS のサイバーパトロール活動や講話活動を続けたい。

熊本 阿蘇援農コミュニティープロジェクト

◆活動概要

人手不足に悩む農家を訪問し、農作業のお手伝いを行なう。援農活動を通して農業技術や知識の習得と共に、農業分野の現状や問題を学生自ら模索し、解決に繋げることが出来る人材育成。農作物の分野だけではなく、畜産分野にも力を入れ、農を幅広く学べるようにする。農作業だけではなく、南阿蘇村を中心に地域貢献や地域活性を行ない、農家と学生の関りや繋がりを増やし、楽しみながら交　流し、教え合い学び合える機会を作る。

◆学びのテーマ

学生と農に関わるひとをつなぐ、実践＆発信

◆１年間の達成目標

学生と農に関わる人をつなぐこと。現場に出ていく実践とそこでのことを多くの人に伝える発信を大切にしていくこと。援農の歴史や想いを考え、農家さんと学生との双方向の意見を取り入れながら活動を行う。また、マルシェなどを通じて南阿蘇の地域活性や貢献のための実践や発信の場を盛り上げる。大きくまとめると以下の４つのことを大切にしたいと考えている。
①農を楽しむ ②つながりをつなぐ ③想い、学びを伝える ④これからも続いていく流れを作る

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	佐藤友里江（農学部応用植物科学科３年）
サブリーダー①	布施里実（農学部応用動物科学科２年）
サブリーダー②	佐藤友希（農学部応用動物科学科４年）
広報リーダー	河野晃也（農学部応用植物科学科３年）
会計	酒井和真（農学部応用植物科学科２年）
アドバイザー	阿部淳（農学部農学科）
コーディネーター	高橋誠二（フェニックスカレッジ熊本オフィス）
	馬原賢信（フェニックスカレッジ熊本オフィス）

・・・メンバー数 77 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～援農畑・阿蘇実習フィールドでの米作り～

今年度から始めた援農畑では、援農活動で学んだ知識・技術を活かし、一年を通して季節ごとの栽培や管理方法などを計画し、学生主体で農作物の栽培を行った。計画通りにいかないことが多く、農業の知識・技術が足りないと実感するとともに、農業の難しさや楽しさを改めて気づくきっかけにもなった。学生同士で協力し合い工夫し実践することで、知識・技術を深めるとともに、農作業を通して学生同士で交流を深める場にもなった。
また、農業の難しさを実感したからこそ援農活動で農家さんからアドバイスをいただくなど、農業への興味関心を高めるとともに、援農活動へ積極的な参加だけではなく、学生と農家さんとの関わりを深めることができた。
学生主体で栽培した農作物だからこその感動や美味しさだけではなく、子ども食堂へ野菜提供をしたことで、農作物や農業の大切さやありがたさを改めて実感できた。お米作りでは、大学や援農活動で学んだことを活かすだけではなく、他学科の学生と一緒に活動を行うことで、別の視点からお米作りに関して考えることができ、学科の垣根を超えた交流や学びにつなげることができた。

～産山村合宿～

産山村は援農活動を中心的に行っている南阿蘇村より山奥にある村で、毎年、夏合宿を行っていた。しかし、コロナ禍の影響で活動できず、今年が３年ぶりの夏合宿となった。今回は、椎茸・花・ほうれん草・酪農の農家さんにお世話になり、１泊２日で農業を幅広く学べる援農活動となった。丸一日を通して農作業を行ったことで普段の援農活動では体験できない作業や貴重なお話を聞くことができた。また、援農活動後には体験したことを学生同士で振り返り、学んだことを共有するなど、学びを深め合う機会にもなった。
山奥の地域だからこその農業への工夫や、先端的な農業機械など、２日間を通して、産山村地域の農業や、実際の農業の現場を深く学べる機会となった。また、農業の知識や技術だけではなく、農家さんの暮らしや流れ、地域との関りを深めることができた。農業だけではなく、農家さんと関わる時間が普段より長く関われたため、学生と農家さんの繋がりだけではなく、受け入れ農家さんや地域の方の優しさにも気づくことができた。

熊本 阿蘇は箱舟プロジェクト

◆活動概要

阿蘇地域は希少種や固有種が生息する草原が広がる生物多様性保全上重要な地域である。同地域では古くから人々の営みにより草原環境が維持され人と自然が共生するモデル地域となっている。本プロジェクトは阿蘇地域の希少野生動植物を後代へ残したいという学生の思いから発足したボランティア活動であり、希少野生動植物の生息環境の維持と , 悪化した生息環境の復元および地域のこども達への啓発活動を行うことを主な目的としている。

◆学びのテーマ

活動の計画力を身につけると共に広報活動から情報発信を行うための構成力を磨く

◆１年間の達成目標

オオルリシジミやダイコクコガネ、アソノコギリソウなどの阿蘇地域に生息・自生する貴重な動植物を守るために阿蘇の草原維持。また、イベントなどを通じて多くの人々に阿蘇の自然を知ってもらう。

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	澁谷光（農学部農学研究科農学専攻１年）
サブリーダー①	佐々木快（農学部農学研究科農学専攻１年）
サブリーダー②	東原野明（農学部応用植物科学科３年）
広報リーダー	米倉咲良（農学部応用植物科学科３年）
会計	松本拓巳（農学部応用植物科学科３年）
アドバイザー	村田浩平（農学部農学科）
	岡田工（理系教育センター）
コーディネーター	古場哲也（フェニックスカレッジ熊本オフィス）
	金子博（フェニックスカレッジ熊本オフィス）

・・・メンバー数 80 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～除草活動～

今年度の除草活動は、我々が最も力を注ぐ活動の一つである。今年度の除草活動は、５月と 12 月に実施し、５月の活動では、希少野生動植物の住まう草原環境の維持、12 月の活動では吸血性害虫の駆除を目的とした。５月に実施した活動では刈払機を扱えるメンバーが中心に集結し、熊本県の社会人ボランティア団体である水源の森ネットワークの皆様の協力も加わり、短時間の内に、保全地帯の草原環境を維持するうえで、十分な範囲の除草を完遂した。12 月の活動では、南阿蘇村役場からの要請により吸血性害虫が出没する荒廃した里山環境の整備を行った。吸血性害虫は、荒廃した里山環境を好み、その被害により、同地域の周辺観光業にも悪影響が懸念されている。一方で、同地域では里山を管理するための人手が不足している。こういった背景から、東海大学と南阿蘇村の共同活動の一環として、当プロジェクトが活動に取り組んだ。除草活動では、専門家であるアドバイザーからのご講義を通じて、阿蘇地域における草原環境の維持、里山管理の意義について、活動に携わった組織の皆様と共に理解を深め、今後も連携を取り会い活動を継続していく重要性を確かめ合った。

～パトロール活動～

パトロール活動は、希少野生動植物の生息地をプロジェクトメンバーが巡回することで、不法採集に対する抑止力となることを目的とした活動である。この活動は、全国的に希少かつ注目されている希少な草原性のチョウである。オオルリシジミの発生時期に合わせた５月に活動を実施している。チョウの仲間は、人気が高く、この時期には大変多くの見物客が訪れる。今年は、コロナ緩和の世情からか、県外から多くの観光客が訪れた。草原にはマダニをはじめとした害虫が多く生息しているため、来場者の方に注意喚起を行いながら世間話に花を咲かせるなど、メンバー各位が世代・年代の枠をこえて、コミュニケーションをとる姿が多く見受けられた。ただ、監視するだけでなく、交流を通じ、種を守ることの重要性を啓発する活動であることを、観光者との会話の中で改めて理解したというメンバーがいたことから、大変実りがある活動であったと言える。また、活動期間中、巡回地域周辺の不法採集による検挙者はいなかったことから、今年も十分な抑止力となれたと考えられる。

熊本 あにまるれすきゅープロジェクト

◆活動概要

本プロジェクトの目的は、居場所を失ってしまった犬や猫の新たな居場所を見つけ、また、啓発活動を通じて、多くの人に犬や猫が殺処分されている現状を知ってもらい、犬や猫のみならず人間と動物との在り方を理解してもらうことを目的としている。本プロジェクトの活動内容は、ジョートフル熊本が主催する譲渡会の運営補助、どうぶつ基金が主催する TNR 地域集中プロジェクトへの参加、SNS 等を活用した犬猫の殺処分ゼロに向けた啓発活動などを行う。

◆学びのテーマ

多くの犬や猫を救うことで、命の尊さを学ぶ。また、学んだ命の尊さを多くの人に伝える力をつける

◆１年間の達成目標

保護犬・保護猫の殺処分数を減らし、命の尊さを伝える

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	濱本敦志（農学部応用動物科学科３年）
サブリーダー①	山口優太（農学部応用動物科学科３年）
サブリーダー②	平原正規（農学部応用動物科学科３年）
広報リーダー	松本風子（農学部応用動物科学科３年）
会計	鈴木菜月（農学部応用動物科学科３年）
アドバイザー	松本大和（農学部動物科学科）
コーディネーター	神鷹孝至（フェニックスカレッジ熊本オフィス）
	佐藤良彦（フェニックスカレッジ熊本オフィス）

・・・メンバー数 65 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～ジョートフル熊本主催　譲渡会～

譲渡会での活動内容は、主に設営や運営補助、撤収などである。
設営は、保護犬のペットサークルの準備や保護猫のケージの準備、その他テントや椅子、ベンチの準備などを行う。この際、譲渡会開始時刻が迫っている場合が多く、メンバー間での連携や他ボランティアとの連携が重要となってくる。設営では、社会性を身につけることができたと考える。
運営補助では、保護犬エリアの受付や保護猫エリアの受付、チャリティー抽選会の運営などを行った。特に保護犬・保護猫エリアの受付では、より近くで譲渡会の一連の流れを見ることができ、知見を深めることができたと考える。加えて、来場者から質問を受けることも多く、説明する力を身につけることができたと考える。運営補助は、譲渡会でのメインの活動となり、参加した学生が一番成長することができた活動である。
撤収は、設営したすべての物の片付けを行った。この際、時間の制限がなく、主催団体の方々や他ボランティアの方々とコミュニケーションを取りつつ、動物愛護についての意見交換も行うことができた。
全体を通して、メンバーが成長することができた企画であると考えられる。

～どうぶつ基金主催　TNR 地域集中プロジェクト～

TNR 地域集中プロジェクトでの活動内容は、主に手術前準備やケージ・器具洗浄、手術後の猫の静置などである。
手術前準備では、注射した麻酔量の記録や術部の毛刈り、点眼、ノミ・ダニ駆除、さくら耳カットなどを行った。毛刈りやさくら耳カットは、方法を間違えると出血の恐れがあるため、慎重に行った。手術前準備では、去勢手術を行う前にどのようなことが行われているのかを知ることができたと考える。ケージ・器具洗浄では、文字通り汚れたケージや器具の洗浄を行った。特に器具には、血が付着しており、綺麗に洗浄しなければ感染症を引き起こす要因にもなるため、留意して行った。ケージ・器具洗浄では、医療用語である清潔不潔について学ぶことができたと考えられる。手術後の猫の静置では、洗浄したケージに手術後の猫を搬入し、収納スペースに静置した。猫を乱雑に扱ってしまうと、術部の傷が開いてしまう可能性があるため慎重に行った。
TNR 地域集中プロジェクトでは、近くで去勢手術を見学することができ、知見を深めることができた。時間がある時は、医師の方が説明をしてくださった。
全体を通して、知見を深めることができた企画であると考えられる。

札幌 札幌ボランティアプロジェクト

◆活動概要

本プロジェクトは地域での除雪活動や大学と地域を繋ぐ活動を主に行っている。夏期にはキャンパス周辺の清掃活動、地域のお祭りの運営補助、町内会との花壇整備などを実施。７月には３年ぶりの開催となった「ラベンダーまつり」を主催した。冬期には消火栓などの公共物の除雪活動を展開。新たな取り組みとして階段の除雪や氷割を実施。またコロナ禍以前に実施していた高齢者宅の訪問除雪を試験的に再開するなど、コロナ収束後を見据えた活動も行った。

◆学びのテーマ

地域の現状や需要を知り、地域に根差した活動をする

◆１年間の達成目標

地域との交流を通して社会性を育み、大学で学んだ知識や技術を用いて地域に貢献する

◆役職 / アドバイザー / コーディネーター

リーダー	吉田遥（国際文化学部デザイン文化学科３年）
サブリーダー①	山崎成（生物学部生物学科４年）
サブリーダー②	黒羽晴佳（生物学部海洋生物科学科３年）
広報リーダー	田中遥斗（生物学部生物学科１年）
会計	櫻井萌（生物学部海洋生物科学科３年）
アドバイザー	植田俊（国際文化学部地域創造学科）
	早川渉（国際文化学部地域創造学科）
コーディネーター	松島佑介（ウチムラカンゾウカレッジ札幌オフィス）
	鈴木啓司（ウチムラカンゾウカレッジ札幌オフィス）
	佐藤奈津子（ウチムラカンゾウカレッジ札幌オフィス）

・・・メンバー数 15 名

◆プロジェクトメンバーが１年間の中で注力した活動（２つ）

～ラベンダーまつり～

地域と大学とがつなぐお祭りとして、本プロジェクトでは例年ラベンダーまつりを主催してきた。しかし、コロナ禍の影響によりここ数年は開催が叶わず、2022 年度に３年ぶりのラベンダーまつりの開催となった。ラベンダーまつりの主催として、メンバー一同数か月前から積極的に動き、地域の方々との交渉から警備の手配等を役割分担し担当リーダーを中心に準備を進めた。各部門でチームを決めて動いたので、それぞれのチームが責任を持ち、チーム内で考え、協議し、時には他チームと意見を交わしながら、それぞれがラベンダーまつり実現のためにタイムスケジュールを考えながら動いていたように思う。
当日はあいにくの雨であったが、プログラムの変更から、警備の持ち回りの管理などまでそれぞれのチームが自身の仕事に自覚をもって立ち回ることができた。トラブル発生時には他メンバーに応援を頼むなど、本プロジェクト一丸となってラベンダーまつりを成功させることができた。地域の方々にも喜んでいただき、短時間かつ雨天ではあったが 500 名ほどの地域の方に足を運んでいただけた。

～除雪活動～

東海大学札幌校舎のある札幌市南区では高齢化が進んでいるため、自力での除雪が困難な方が多いという背景から、例年除雪活動を行っている。
コロナ禍以前は高齢者宅へ訪問除雪を行っていたが、感染予防の観点から活動内容の継続が厳しくなり、昨年度からは消火栓などの地域の公共物を中心として除雪活動を行っていた。
2022 年度は昨年度の活動内容に則りつつ、除雪の依頼があった高齢者世帯２軒を、感染防止に努めつつ試験的に除雪活動を行った。上記のラベンダーまつりにも言えることではあるが、数年の活動ができなかった期間によって、以前の活動を知らないメンバーが増えており、伝統の継承が難しくなっていたため、伝統を知るという意味で従来の除雪形態の体験を行うこととした。当初はジャンボタクシーによる除雪道具運搬を想定していたが、インバウンド観光客の増加により、タクシー予約ができず、徒歩での移動となった。2023 年度の新型コロナウイルスの状況にもよるが、従来の除雪形態を知ったうえで昨年度からの形態と見比べて、それぞれのリスクと地域の貢献度、良い点と問題点を考えつつ、次年度の活動形態を計画したい。

2022 年度 ユニークプロジェクト一覧

ユニークプロジェクト～春～

NS テクノロジーズ〈高輪〉
ET ソフトウェアロボコン（ET ロボコン）2022 に参加し、上位入賞を目指します。ET ロボコンでソフトウェア開発力およびコミュニケーション力を向上させるとともに、社会で必要とされる基礎力や社会に適応していく力を実践的に身に付けます。またプロジェクトの管理、運営を円滑に行えるようにメンバー全員で問題解決に向かっていける体制を構築し、技術力だけでなくエンジニアとしての素養を磨いていきます。

動植物園プロジェクト〈熊本〉
熊本市動植物園と連携し、来園者を楽しませるイベントの開催や園内の資料館での展示、プロジェクト独自の HP を利用した情報発信を行います。特に来園者の誤解を招きやすい屠体給餌についての解説に力を入れます。また、以前からの活動の継続として、動植物園のボランティア活動も行います。情報発信やイベント開催などの活動を通して野生動物の生態や環境保全、展示や企画の技能を学ぶことを目的とします。

海中美化プロジェクト〈清水〉
本年度も昨年度に引き続き、釣りが及ぼす環境負荷をダイビングでの海中清掃を活かして減らしていきます。それと同時に得られる学びに重点を置くことを活動概要とします。また、新型コロナウイルスの蔓延によりプロジェクト活動自粛等が長らくあったことで、海中環境がどのように変化したのか分析し課題点を見出していきます。これらによって得られた成果を、富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア、三保水中生物研究会で発表し、地域住民や他大学の学生との意見交換を検討しています。

阿蘇環境プロジェクト〈熊本〉
阿蘇地域にて、生態系と水循環の両面から環境調査を行い、熊本地震後の環境変化とその後の回復過程を記録に残します。また、阿蘇地域の雄大な環然を広く発信することにより阿蘇地域の復興支援につなげることを目的とします。そのため、ドローンを使った植生調査、水質調査を行い、その結果を発信し阿蘇の素晴らしさが伝わるような Web ページの作成を行います。

海の技術を教え隊プロジェクト〈清水〉
主な活動内容は、国内の水中ロボット大会に出場すること、および中高生を対象に水中ロボットを関連させたイベントを開催することです。この活動を通して、メンバーおよび周りの人々が海や水中に関するロボット技術への理解を深めていくことを目的とします。また、チーム一丸となって大会やイベントに取り組むにあたって、メンバーのコミュニケーション力や関係構築力の向上を目指します。

熊本地域プロジュースプロジェクト〈熊本〉
現在の熊本県では過疎化、高齢化が進行し、これらの問題解決のため、本プロジェクトは「地域の魅力の再発見・再発信」を活動理念にして活動しています。この理念をもとに地域でイベントを開催し、観光客を誘致して観光による解決を考えています。地域の住民とコミュニケーションを取りつつ、阿蘇地域・天草地域・熊本市内での活動を行います。

阿蘇 MIARI 広場〈熊本〉
南阿蘇村の学生とのつながりを深めるために村おこしを行い、この運営で社会人に必要なスキルを養うことを目的とするプロジェクトです。物事を進んで取り組むこと、南阿蘇村の地域住民や他学部・学科の学生などの人々を巻き込むこと、周りの人々への幸せや南阿蘇村の復興のその先にある明るい未来をつくっていきたいです。社会人の一歩手前にいる学生の成長や南阿蘇村の復興にもつながることができるプロジェクトを目指します。

地域連携プロジェクト＋SAN〈札幌〉
札幌市南区が区制 50 周年という節目の年であるため、特にデザインの力で地域活性を促し南区の方々とのつながりをより一層深め、南区の未来をともに創造していけるプロジェクトを目指します。さらに、南区外の方々にもっと南区のことを知ってもらえるよう、フリーペーパーの制作を年 2 回に増やします。また、それを十分に周知できるように配布場所を広範囲にすることと、Web サイトと SNS を頻繁に運用し、制作物に触れてもらえる努力をしていきます。

ユニークプロジェクト～秋～

プラスチック削減プロジェクト＜湘南＞
本プロジェクトは学内にウォータスタンドを設置することで学生に対して無料で飲料水を提供し、ペットボトル削減を通じて大学内の脱プラを促進していくプロジェクトです。東海大学には 2 万人を超える学生が在籍しているからこそ、大幅な削減が見込まれます。現在、本プロジェクトは IAKOT 様の協力を得てウォータスタンド設置に向けて活動しています。他方、脱プラをテーマとした授業の補佐や秦野市の様々な人と繋がり脱プラ・環境教育を進める予定です。

T-ROOM『Nabi』〈湘南〉
「大学生活の楽しさ」を学生目線で伝えることを目標に、大学をテーマとした MV/PV 制作や学生インタビューなどの企画を行い、YouTube 等で発信していくプロジェクトです。また、私たちは T-ROOM という名前で「AXIS」との共同プロジェクトとして、「AXIS」が運営を行う 11 号館地下を「NABI」の拠点とさせていただき、撮影やコラボイベント、広報活動などの企画を通じて、大学生の「居場所づくり」と学生目線の「情報発信」を行います。

SARTs〈湘南〉
世界的に SDGｓが注目されています。しかし、現状として東海大学では SDGｓに関して学生主体の活動が少ないことが課題点として挙げられます。文字や言葉の壁を越えたアートを通して SDGｓを広めていきます。展示や販売を通して活動を拡大、東海大学により多くの注目を集めることでより良いアピールにつなげます。地域の人を呼び込めるような環境作りを行います。

Zero Waste Tokai＜湘南＞
東海大学の中でゼロウェイストキャンパスを目指していくためのプロジェクトです。まず、健康学部の生徒・教員を対象とし、1 日に排出されるゴミの量を測定します。そして、現状を踏まえた上で、マイボトル・弁当の持参キャンペーン、ゼロウェイストキャンパスに向けた学習会などのイベントを開催し、ゼロウェイストの意義を考えるとともに、今後に向けてのアクションプランの策定を目指します。

GIP foods〈湘南〉
健康学部の学生が主導し、普段大学で学んでいる知識を用いて、飲食店の方々と共同で健康的なメニューの開発を行います。お客様に対する健康的な食品の提供と健康知識の啓蒙を行っていく活動や大学近隣の地域や大学から遠く離れた地域の方々と大学生が手を組んで、その地域の魅力を大学内外に発信します。地域の活性化に寄与する事を目指した活動などを行っています。

+digital〈渋谷〉
渋谷区在住の高齢者が抱える孤立化やデジタルデバイド等の課題解消に向けたシニア×大学生の交流イベントです。デジタルデバイスに関心がなく必要性を感じていない高齢者に対して、利便性を知っていただき興味関心を高め、情報格差を解消する必要性を感じました。そこで「日常にデジタルを」というコンセプトのもと、日常生活にデジタルを掛け合わせた内容の交流会や街歩きイベント（フォトロゲ）を実施します。

Ubumwe coffee Project〈湘南〉
「社会問題の解決に寄与する活動」の中から国際社会での貧困、格差、不平等の問題に着目し、フェアトレードで輸入したコーヒー豆の販売を行います。フェアトレード商品に触れ、生産国と消費国の間の搾取関係、それに伴う貧困について知り、フェアトレードの重要性について理解すること。そして、最終的には学内でカフェを開設し、フェアトレードやその他 SDGs 諸問題解決に対する能動的な行動を促すことが活動の目的です。

Shark Amazing Project＜清水＞
解剖や骨格標本の作製を通じて各種のサメに関する生物学的な知識を身に着けます。また、サメ肉の試食やサメ革クラフトで資源としてのサメの利用方法を模索するほか、文化的側面に関する教養を深めます。これらを通じて得た知識や情報をまとめ、オープンキャンパスや沼津市戸田の深海魚まつり等でパネルの展示や解説を行い、一般の方に発信、サメへの関心を深めてもらいます。

ユネスコユース〈湘南〉
日本の性教育は驚くほど怠っています。また、外国人コミュニティで生活している子どもたちは性教育の授業を受けておらず、正しい知識を男女関係なく身につける必要があります。そこで私たちは性教育を目的としたキャンプを通してお互いの価値観を理解し多国籍なキャンプを行うことで多文化共生にもつながる活動を行います。また、ジェンダーとセクシュアリティーにおいての経験談や外国にルーツを持った方々の日本での経験談などを共有し考え、よりよく生活できる社会を目指します。

米粉スイーツ開発プロジェクト〈熊本〉
日本の農業の現状として農業人口は減っており、その要因の一つとして農家の利潤の減少があげられます。現在日本の米は年々消費量や食料自給率が減少しており、そのため米農家の利益も減少しています。これを改善するため米をそのまま使うのではなく、米粉に加工しそれを取り扱った商品を開発することにより米に新たな付加価値を付け米の消費量の増加を目指し、それによる農家の利益向上、食料自給率を増加させることを目的とします。

T-ROOM（AXIS）〈湘南〉
東海大学の大きな魅力である様々な学部が集うという部分が生かされていないと感じました。そこで様々な学部が集い交流を深められる場所を作りたいと思い活動しています。（AXIS）は、様々な学部と協力してカフェを作り上げることによって学部連携の懸け橋・軸となり大学を盛り上げていきます。また、現在夏休みからできる活動として SNS により建設過程や活動記録を公開することで大学生の楽しさ・東海大学の魅力を発信していきます。

メディア掲載一覧 / スチューデントアチーブメントセンター長受賞者

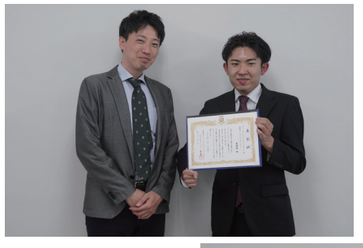
2022 年度 メディア掲載一覧

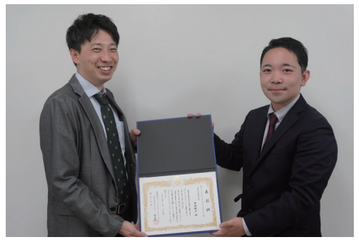
校舎	チャレンジプロジェクト名	掲載・放映日	メディア名	分類
湘南	病院ボランティアプロジェクト	（2023 年度）4 月 20 日	タウンニュース（平塚）	WEB
	東海大学学生ロケットプロジェクト	3 月 4 日	十勝毎日新聞	WEB
		3 月 5 日	北海道新聞	新聞・WEB
		3 月 6 日	十勝毎日新聞（帯広）	新聞
		3 月 9 日	大学ジャーナル	WEB
		3 月 9 日	UchuBiz	WEB
		3 月 16 日	Forbes JAPAN	WEB
		3 月 23 日	相模経済新聞（相模原）	新聞
	Egyptian Project	8 月 7 日	東京新聞	新聞
清水	商品開発プロジェクト	7 月 10 日	静岡新聞	新聞
		7 月 28 日	静岡朝日テレビ	TV
		8 月 18 日	SBS 静岡放送	TV
		9 月 9 日	YBS 山梨放送	ラジオ
熊本	先端技術コミュニティ ACOT	7 月 11 日	T1Park マガジン	WEB
札幌	札幌ボランティアプロジェクト	12 月 23 日	北海道新聞	新聞
		2 月 3 日	STV ニュース北海道	TV・WEB

スチューデントアチーブメントセンター長受賞者

校舎	チャレンジプロジェクト名	受賞者名
湘南	病院ボランティアプロジェクト	森岡成
	スポーツ社会貢献プロジェクト	山下深桜
	サイエンスコミュニケーター	大谷内梨聖
	Tokai Formula Club	前田剛志
	東海大学人力飛行機チーム TUMPA	工藤勇人
	東海大学学生ロケットプロジェクト	鈴木凜太郎
	Tokai International Communication Club	小倉龍矢
	3.11 生活復興支援プロジェクト	今井響
	Sunflower	鈴木晶太
高輪	Takanawa 共育プロジェクト	油谷凜
熊本	阿蘇援農コミュニティープロジェクト	佐藤友希
	あにまるれすきゅープロジェクト	新田智之
札幌	札幌ボランティアプロジェクト	山崎成

＊認定条件
1. チャレンジプロジェクトに加入して 2 年以上活動した者（継続していなくても構わない）
2. プロジェクトリーダーを務めた経験がある者
3. 修了認定を 2 回以上受けている者
4. 卒業が決定している者





1年間の活動記録

病院ボランティアプロジェクト

年	月	企画名	内容
2022	4	医療情報の発信	「新しい環境の身体の変化」に関する情報の発信
	5	医療情報の発信	「音楽と健康の関係」に関する情報の発信
	6	医療情報の発信	「身体の栄養の秘密」に関する情報の発信
	6	絵本制作 脚本会議	絵本のコンセプト設計、脚本の制作に関する会議
	7	医療情報の発信	「現代社会の健康について」というテーマで情報の発信
	8	医療情報の発信	「夏の運動のあれこれ」というテーマで情報の発信
	9	医療情報の発信	「緊急ために用意しよう」というテーマで情報の発信
	9	絵本制作 イラスト会議	学内デザイン学課程の教授・学生との絵本のイラストに関する会議
	10	医療情報の発信	「女性の健康の悩み」に関する情報の発信
	11	医療情報の発信	「衣食住の健康のポイント」に関する情報の発信
	12	医療情報の発信	「健康的な歯を目指そう」というテーマで情報の発信
2023	1	医療情報の発信	「身体の不思議について」というテーマで情報の発信
	2	医療情報の発信	「アルコールの有効性」に関する情報の発信
	3	絵本制作　絵本発送	計 12 ヵ所の児童関連施設への絵本の発送

スポーツ社会貢献プロジェクト

年	月	企画名	内容
2022	5	ノルディックウォーキング教室	地域の高齢者を対象としたノルディックウォーキング教室
	5	スポ社運動会	新入生歓迎会のスポーツ大会
	6	ニコニコ教室	未就学児、親子を対象としたコミュニケーションが取れるようなイベント
	7	でかスポ杯	プロジェクト同士の交流を深めるためのスポーツ大会
	9	ガラナ・アンタルチカ杯	ビーチバレーボール大会のお手伝い
	10	子どもの家	大野、みなと、山城の３館で実施。子どもと一緒に体を動かしスポーツの楽しさを伝える。
	11	ノルディックウォーキング教室	高齢者を対象としたノルディックウォーキング教室
	12	多世代交流	乳幼児から高齢者を対象とした多世代交流を図るイベント
2023	2	スポ社運動会	下級生のイベント運営の練習を目的としたスポーツ大会

Tokai Formula Club

年	月	企画名	内容
2022	4	SES 試験実施	Tokai Formula Club の車両の特徴であるカーボンモノコック。その素材の強度、剛性を試験によって計測し、ドライバーの安全が確保された車体を作る。
	5	SES 試験実施	前回の試験から準備方法を見直して再度試験を実施した。
	5	SHCC 運営補助	湘南ヒストリックカークラブ主催のイベントの運営補助として参加した。
	6	支援企業様訪問	支援を頂いている企業様に訪問し、支援品を頂いた。
	8	三支部合同走行会	実際に大会が行われる会場で実施される走行会に参加した。本年度初の宿泊を伴う走行会であったが、車両を走らせることはできなかった。
	8	富士スピードウェイ走行会	他大学を呼び、合同で走行会を実施した。ここにて、本年度車両が初めて走りシェイクダウンとなった。
	8	筑波サーキット走行会	他大学を呼び、合同で走行会を実施した。順調に走行していたが、テスト中にエンジンが焼き付いてしまった。
	9	第 20 回学生フォーミュラ日本大会	第 20 回学生フォーミュラ日本大会に参加。車検を通過したものの、走行前にアクセルペダルが破損し動的審査への出走がかなわずリタイア。38 位に終わった。
	10	富士スピードウェイカースワップ	他大学を呼び、お互いの車を乗り比べた。これにより多くの情報が得られ、我々の車両の性能への分析に役立った。
	10	SHCC 運営補助	湘南ヒストリックカークラブ主催のイベントの運営補助として参加した。
	11	静的交流会参加	名古屋大学様主催の静的交流会に参加し、多くの大学と交流した。
	12	2023 年度車両設計	2023 年度大会に向け新規車両の設計をした。

東海大学ソーラーカーチーム

年	月	企画名	内容
2022	4	学内試走 (ソーラーカー)	新東名高速開通式に向けたソーラーカーの学内試走
	4	新東名高速（新秦野 IC ～伊勢原大山 IC）開通式	開通式イベントにて 19 年型ソーラーカーでパレード走行に参加
	5	学内試走（電気自動車）	WEM に向けた電気自動車の学内試走
	6	学内試走 (ソーラーカー)	秋田テストに向けたソーラーカーの学内試走
	6	走行テスト（秋田）	大潟村ソーラースポーツライン（秋田）にて 23 年大会に向けた開発テスト
	6	学内試走（電気自動車）	WEM に向けた電気自動車の学内試走
	7	学内試走（電気自動車）	WEM に向けた電気自動車の学内試走
	7	工作体験・ソーラーカーの乗車体験	三井ショッピングパークららぽーと湘南平塚ららぽーと湘南平塚にてソーラーカーキットの工作体験やソーラーカーの乗車体験を実施
	8	World Econo Move 2022	電気自動車の国内大会
	9	World Green Challenge 2022	ソーラーカーの国内大会
	9	学内試走（電気自動車）	名取 WEVC に向けた電気自動車の学内試走
	10	2022 World Electric Vehicle Challenge on NATORI	電気自動車の国内大会
	10	走行テスト（秋田）	大潟村ソーラースポーツライン（秋田）にて 23 年大会に向けた開発テスト
	11	学内試走（電気自動車）	NATS EV 競技会に向けた電気自動車の学内試走
	11	NATS EV 競技会	電気自動車の国内大会
	11	Mg-Day in IWAKI　ソーラーカー展示	いわき産業創造館にてソーラーカーの展示
	11	座間展示	座間市立青少年センターにてソーラーカーの展示を実施
	12	エコカー教室	大根小学校の４年生を対象にした電気自動車・ソーラーカーを用いたエコカー教室を実施。中央通りを電気自動車・ソーラーカーを走行し、見学してもらった。
2023	1	学内試走（電気自動車）	来年度の大会に向けた１、２年生の教育も兼ねた電気自動車の学内試走
	3	ソーラーカー展示（平塚・相模大野）	「ボーノ相模大野開業 10 周年イベント」・「The　Outlet SHONAN HIRASTUKA」の２会場にてソーラーカーの展示を実施した。

サイエンスコミュニケーター

年	月	企画名	内容
2022	7	市制施行 90 周年ひらつか環境フェア 2022	平塚市リサイクルプラザにおいて光るスライム工作教室を出展した。
	8	科学実験教室！ ～不思議な蓄光スライム～	TEAPIA 先端技術館において小学生を対象に光るスライム工作および科学実験教室を実施した。
	8	サイエンスリンク 2022 ～つなげよう広げよう科学の輪～	日本科学未来館において NPO 法人サイエンス主催のイベントに出展した。当プロジェクトは偏光板を使用した工作を出展した。
	8	科学マジックショー	大野子どもの家、山城子どもの家、みなと子どもの家の計３館において小学生を対象に光や空気・真空をテーマとした実験ショーを実施した。
	8	光るスライム教室	三井ショッピングパークららぽーと湘南平塚において小学生を対象に光るスライム工作教室を実施した。
	9	子ども科学実験教室	秦野市立大根公民館において小学生を対象に空気・真空および音をテーマとした実験ショーを実施した。
	11	東海大学生のサイエンス教室	松が丘小学校にて小学生を対象に空気・真空をテーマとした実験ショーおよび科学工作教室を実施した。
	11	こども大学ひらつか奏アカデミー	小学４・５・６年生を対象とした実験工作教室をアドバイザー岡田工教授とともに実施した。光をテーマとした実験ショーと偏光板を使用した工作を行った。
2023	2	SC 実験企画超会議	当プロジェクトの実験企画会を行った。３つのグループが新規実験や工作の企画を発表した。
	3	科学で遊ぶ！！ボーノで サイエンス DAY	ボーノ相模大野において工学部の秋山先生や他プロジェクトとともに科学イベントを実施する。当プロジェクトは人工イクラ、光るスライムおよび偏光板を使用した工作を出展。

キャンパスストリートプロジェクト

年	月	企画名	内容
2022	4	プロジェクト実践	C.A.P. メンバーの社会的実践力を身につける内容の授業
	5	湘南フラガーデン	ヨネザワ楽器主催による音楽イベントのボランティア活動に参加
	7	プロジェクト間交流	TICC との合同企画の実施に向けた交流会
	9	平塚ビーチバレー大会	ビーチバレー大会のボランティア参加
	12	クリスマス U-night2022	駅前広場にてツリー、陸橋のライトアップ及びライブ、ワークショップの実施

東海大学人力飛行機チーム TUMPA

年	月	企画名	内容
2022	4	Red bull paper wings 2022	スタッフとして参加した。
	5	2022 年度機体主翼桁荷重試験	主翼桁の強度の確認を行った。
	6	組み立て試験（ものつくり館裏）	テストフライトに向け組み立てを行い、組み立て時間の短縮を目指した。
	6	回転試験（ものつくり館裏）	実際にパイロットがペダルを漕ぎ駆動部分の強度確認を行った。
	6	第１・２回テストフライト (富士川滑空場)	組み立てと滑走を行った。
	6	第３回～５回テストフライト (富士川滑空場)	組み立てと滑走を行った。
	7	押し出し試験	鳥人間コンテストのプラットフォーム上の動きの確認と発進時の機体の強度確認を行った。
	7	第 22 年度鳥人間コンテスト 2022	書類審査に通過したものの大会前までに飛行できなかったため辞退。
	8	ものつくり教室（鶴巻東コミュニティーセンター）	未就学児から小学校低学年を対象としたものつくり教室を開催した。
	9	HPA 秋季交流会	他チームと情報交換を行った。
	9	第６回テストフライト (富士川滑空場)	ジャンプを成功させた。
	10	第７回テストフライト (富士川滑空場)	飛行を成功させた。
	10	組み立て試験	次年度に向け１・２年生だけで組み立てを行い、時間短縮の目指した。
	12	スカイスポーツシンポジウム	スカイスポーツシンポジウムにオンラインで参加。
2023	1	荷重試験	主翼桁の強度の確認を行った。
	1	HPA 部品展示会	他大学、社会人チームと部品を中心とした情報交換を行った。
	2	ものつくり教室	東海大学付属甲府高等学校でものつくり教室を開催した。

東海大学学生ロケットプロジェクト

年	月	企画名	内容
2022	8	長距離伝送試験	湘南校舎１号館屋上と富士山山頂でのデータ送受信試験
	9	OBOG 会	オンラインにて OBOG と交流
	12	燃焼実験	冬期打ち上げに向け点火試験
2023	1	燃焼実験	冬期打ち上げに向けた性能試験
	2	燃焼実験	冬期打ち上げに向けた領収試験
	2	渡航	実際に作成したロケットの打ち上げ
	3	渡航	実際に作成したロケットの打ち上げ

1年間の活動記録

Tokai International Communication Club

年	月	企画名	内容
2022 ～ 2023	4 ～ 7 9 ～ 2	にこティー教室	外国にルーツのある子供たちを対象として、学習支援を行った。
	5	Exchange Meeting	Beijo Me Liga と合同で世界の遊びや異文化理解を促進できるようなワークショップを行った。TICC からは、ビニャータとニワトリと芋虫という鬼ごっこを提案して行った。
	5	タイの留学生へのキャンパスツアー対応	ビーワンオフィス（国際担当）からの要請を受け、タイから来日した留学生のキャンパスツアーに対応した。
	6	留学生の銀行・市役所同行	ビーワンオフィス（国際担当）からの要請を受け、来日留学生の市役所および銀行への同行・書類作成などのサポートを行った。
	7	ウクライナ支援のための募金活動	ウクライナを支援することを目的として、学内で募金活動を行った。
	7	翰林日本語学院との交流会	翰林日本語学院に訪問し、けん玉や書道、だるま落としなどの日本の伝統的な遊びを通して交流会を行った。
	7	OB・OG の先輩方との交流会	コロナ禍以前の活動実態などを知るため、OB・OG の先輩方と交流を行った。
	8	越洋祭	東海大学の準公認サークルである「CHINA CAREER UP」と、日本と中国の文化交流が促進できるような活動を行った。
	9	留学生の銀行・市役所同行	ビーワンオフィス（国際担当）からの要請を受け、来日留学生の市役所および銀行への同行・書類作成などのサポートを行った。
	10	留学生の銀行・市役所同行	ビーワンオフィス（国際担当）からの要請を受け、来日留学生の市役所および銀行への同行・書類作成などのサポートを行った。
	12	クリスマス u-night2022 への参加	キャンパスストリートプロジェクト主導の企画に参加し、秦野市に住む子供たちとの交流を行った。
	12	タイの留学生へのキャンパスツアー対応	ビーワンオフィス（国際担当）からの要請を受け、タイから来日した留学生のキャンパスツアーに対応した。
2023	2	あやせ国際フェスティバルへの出展	あやせ国際フェスティバルという綾瀬市で行われたイベントに参加し、ウクライナについての理解を深められるようなワークショップを実施した。
	2	留学生の日本語での会話授業サポート	フィンランドからの留学生に対して日本語での会話授業サポートを行った。

3.11 生活復興支援プロジェクト

年	月	企画名	内容
2022	5	3.11LCP ワークショップ	新メンバーを含む全メンバーを対象に、活動を理解すること、東北・震災・防災に興味・関心を持ってもらうこと、メンバーとの交流を目的に全４回、ワークショップを実施した。
	6	3.11LCP ワークショップ	新メンバーを含む全メンバーを対象に、活動を理解すること、東北・震災・防災に興味・関心を持ってもらうこと、メンバーとの交流を目的に全４回、ワークショップを実施した。
	7	現地調査	3 年ぶりに岩手県・宮城県を訪問。2 日間で泊地区や相川地区・小指地区の住民の代表者との顔合わせや打合せ、各拠点視察などを実施。また、震災関連施設を訪問し、震災学習も実施。
	8	平塚市総合防災訓練	平塚市総合運動公園で開催された防災系のイベントである。3 年ぶりに対面形式で開催された。本プロジェクトは、活動写真やパネル等の展示を実施した。
	9	令和４年度「大学生の力を活用した集落復興支援事業」福島県伊達市富成地区　オンライン交流会	採択を受け、調査担当となった伊達市富成地区の皆さまと Zoom を利用して交流会を行い、自己紹介や意見交換などを実施した。
	11	令和４年度「大学生の力を活用した集落復興支援事業」福島県伊達市富成地区　現地調査	採択を受け、調査担当となった伊達市富成地区を初めて訪問し、2 日間で現地調査を行った。富成地区の皆さまと一緒に地域散策や意見交換会、あんぽ柿生産現場体験などを実施した。
	11	現地調査	宮城県を訪問し、2 日間の日程で相川地区・小指地区の住民の代表者との顔合わせや打合せ、各拠点視察などを実施した。また、震災関連施設を訪問し、震災学習も実施した。
2023	2	令和４年度「大学生と集落の協働による地域活性化事業」 活動報告会	大学生事業に参加している 23 グループが１年間の活動成果などについて報告する会。活動１年目として、福島県伊達市富成地区で実施した活動や地域活性化案などについて報告した。
	3	ひらつな祭	平塚駅北口の紅谷パールロードで開催される防災系のイベントである。活動紹介や東日本大震災について伝える展示や防災意識を高めてもらえるようなブースの出展を行った。

Egyptian Project

年	月	企画名	内容
2022	4	勉強会	各自で取り上げたテーマについて１５分間の発表＋質疑応答
	6	Excel 講座	小能治子さんによる Excel の使い方講座
	8	古代エジプトをつくろう	大根公民館をお借りして、小学生を対象としたヒエログリフを書くパピルス栞作りとアクリルキーホルダー作り体験のワークショップ開催
	9	勉強会	各自で取り上げたテーマについて１５分間の発表＋質疑応答

学生相談窓口【little tree】

年	月	企画名	内容
2022	4	質問・相談受付	SNS にて、東海大学生から来る質問・相談を４月より年間通して随時対応
	4	質問応答 AI	学生相談窓口の一部自動化を目的とした AI を４月より年間通して作成
	8	対面面談	対面形式での質問・相談
	9	対面履修相談	対面形式での履修に関する質問・相談

Beijo Me Liga

年	月	企画名	内容
2022	4	カチアさんイースター	愛川町で開かれるイースターで、エッグハントなどのアクティビティと交流を行った。
	4	オプソンイースター	エスコーラオプソンで開かれるイースターで、エッグハントなどのアクティビティと交流を行った。
	4	エスパシン	岐阜にいる外国にルーツを持つ子どもたちと、交流を行った。
	6	募金	エスコーラオプソンの学生証の発行のための資金集めをした。
	6	オプソンフェスタジュニーナ	エスコーラオプソンと一緒にフェスタジュニーナを行い交流した。
	6	大学でのフェスタジュニーナ	大学内に多くの子どもたちを呼び、一緒に自国の文化について交流を行った。
	8	スクラッチアート	オンライン上で、エスコーラオプソンの子どもたちとスクラッチアートを行い交流した。
	9	オプソンキャンプ	自分自身を好きになってもらえるような巨大絵など行うキャンプを行った。
	10	国際フェア	国際フェアのブラジルブースの説明団体として参加した。
	10	大阪訪問	初めて対面で大阪のコミュニティと関わり、イベントの相談を行った。
	11	ブラジル運動会	関西大学の学生ら、関わっている子どもたちと一緒に運動会を行い交流した。
	11	ひまわり学園　訪問	日本語が理解できていない子どもたちのために楽しく日本語教室を行った。
	11	オプソン運動会	エスコーラオプソンの子どもたちと一緒に運動会を行い交流した。
	11	SDGs 勉強会	クアドリーリャのオンライン配信など他大学団体と ZOOM で交流した。
	12	オプソン卒業式	エスコーラオプソンの子どもたちの卒業式に参加した。
	12	ひまわり学園　訪問	日本語が理解できていない子どもたちのために楽しく日本語教室を行った。
	12	ひまわり学園 卒園式	ひまわり学園の子どもたちの卒園式に参加した。
	12	カチアさんクリスマスパーティー	地域の方も集まりクリスマスパーティーを行った。
2023	2	ひまわり×大学見学	大学内で、日本の伝統的遊びを通じて子供達交流した。

Tokai Dream Space Project

年	月	企画名	内容
2022	6	広報準備	IWRC のポスター・ビラの作成
	8	IWRC の企画	上級生と新入生で話し合いをしながら、開催形式、日程、レギュレーション等、大会の詳細を決めた。広報開始。
	9	IWRC 準備	IWRC 資料作成、IWRC 規定作成
	10	IWRC 規定の配布	IWRC 規定を参加者に配布した。
	11	IWRC2022　light	試験打ち上げ企画。競技大会リハーサルを行った。
	12	IWRC2022　light	IWRC2022 light の試験打上は対面で実施した。参加した５チーム全ての打ち上げが無事に完了した。

Takanawa 共育プロジェクト

年	月	企画名	内容
2022	4	TAKANAWA HOP WAY（ホップイベント）	Tokyo Yard Building にて、地域の方と高輪のイメージについて話し合った。
	5	ダンス教室	TAP でのダンス教室のサポートを行った。
	6	TAKANAWA HOP WAY（ホップイベント）	Tokyo Yard Building にて、高輪をイメージしたビールの味について意見交換を行った。
	7	交流会	TKP の１年生に高輪校舎の紹介と TKP のメンバーでカードゲームを行った。
	8	ダンス教室	TAP でのダンス教室のサポートを行った。
	9	高輪神社祭	高輪神社祭での運営サポートを行った。
	9	TKP といっしょ（子供向けイベント）	TAP で子供たちがカリンバを作る TKP 主催イベントを開催した。
	9	TAKANAWA HOP WAY（ホップイベント）	Tokyo Yard Building にて、ホップの生育状況について報告、交流した。
	9	MOA 美術館児童作品審査会	MOA 美術館児童作品審査会にて審査がしやすくなるように作品の整理等の運営サポートを行った。
	10	TAKANAWA HOP WAY（パン作り）	ホップを使ったパン作りをするイベントに参加した。
	10	高輪地区まつり feat. Takanawa Gateway Fest 2022	高輪ゲートウェイ駅（およびその周辺）で行われたお祭りで盆踊りを中心に運営サポートを行った。
	10	TAP 館祭り	TAP 館祭りで受付などの運営サポートを行った。
	11	TAKANAWA HOP WAY（ホップイベント）	Tokyo Yard Building にて、ビール瓶のラベル貼りと醸造祭の運営サポートを行った。
	12	イルミネーション点灯式	高輪校舎にイルミネーションの飾り付け、点灯式を行った。
	12	区長と区政を語る会	区長や地域の方と港区について意見交換をした。
	12	八潮子ども夢大学	八潮子ども夢大学の運営サポートを行った。
	12	たかなわ子どもコミュニティ・カレッジコンサート（TKCC）	TKP についてのプレゼンとコンサートの運営サポートを行った。
2023	2	TAP 冬まつり	TAP での冬まつりの運営サポートを行った。

Global Innovation Project

年	月	企画名	内容
2022	4	Welcome Event	GIP の説明会および、GIP のアドバイザーであるニノ宮リムさち准教授による「持続可能な社会？ SDGs ？私たちはどうしたい？」と題した講演を行った。
	4	ミニプロジェクトメンバー募集プレゼン	ミニプロジェクトを設立したメンバーによる、メンバー募集プレゼンを行った。プレゼン後には、興味のあるミニプロジェクトのところへ行き、相談できる時間を設けた。
	5	相模高校でのプレゼン	東海大学付属相模高等学校の教職員の方々に対してプレゼンテーションを行った。
	6	甲府高校での高大連携	東海大学付属甲府高等学校との高大連携を行った。アドバイザーであるニノ宮先生リムさち先生の講演後、甲府高校とブレインストーミングを行った。
	7	メンタルヘルス ×SDGｓワークショップ	心理学に興味のある学生の意見を取り入れ、株式会社 Emostyle 代表取締役社長 八代様による講演会を開催した。
	7	地域大学生トークセッション	エンタメ型地域活性化コミュニティ ココハダ LAB 代表のジェントルゆうすけさんをお招きし、地域活性化やリーダーシップメンバーシップについての講演会を開講した。
	8	秦野名水ゼリーの開発・販売	「第６回秦野名水フェスティバル～名水を科学する～」において、複数の企業コラボのもと、秦野名水を使用した商品開発・販売を行った。
	8	秦野青年会議所主催イベントへの後援	「2022 年度７月定例会～第２回秦野の魅力発見！　秦野の良いとご絵描いてみよう！～」に後援として参加。配布冊子に作成した SDGs のイラストが起用された。
	9	相模高校でのメンター参加	教養学部の日比 慶久講師が東海大学付属相模高等学校にて行った出前授業に、メンターとして参加した。
	9	ビジネスマナー講座	観光学部の橋本朋子教授を講師としてお招きし、対企業等に対する営業活動に利用できる「ビジネスマナー講座」を開講した。
	10	ワークショップ	授業の一環として、各ミニプロジェクトがワークショップを担当した。それぞれ特色のある活動が見られた。（10 月～１月にかけて全６回実施 ）
	11	額縁制作	「海の豊かさを守ろう」のイラストに合わせ、海で拾った流木などの素材で額縁の作成を行った。
	12	北海道訪問	北海道栗山町を訪れ、かぼちゃスーパー出店に向け、商品化のための袋詰め作業を実行した。
	12	HADO イベントへの参加	地域との繋がり創成のため、秦野市立本町中学校で AR スポーツである「HADO」を用いたイベントに参加した。
	12	かぼちゃスーパー出店	スーパーアルプス 相模原インター店前にて、北海道栗山町産の冷凍かぼちゃを販売。フードロスの啓蒙や栗山町の魅力を記載したパンフレットを同封。
2023	1	ウォーターサーバー設置に向けて	学内の脱プラ促進のため、ウォータースタンドの設置に関する下見等の活動や、全学アンケートを実施した。
	1	甲府高校での高大連携	東海大学付属甲府高等学校にて、ニノ宮リムさち先生の指導のもと、SDGs についての体験学習の報告会に参加。質疑応答の時間では大学生の視点から、質問やアドバイスを行った。
	1	ゴミ分別イラストの貼り付け	ゴミの分別表示のイラストを作成し、１号館等に掲示した。
	2	トウ×ロゲ	ロゲイニング等の生涯スポーツを通して、東海大学や SDGs のことを知るきっかけづくりがテーマの中学生対象イベントを開催した。

1年間の活動記録

商品開発プロジェクト

年	月	企画名	内容
2022	5	商品の試作	各班で開発中の商品の商品化に向けての試作
	6	食品安全に関する説明会	アドバイザー教員から食品安全についての講義
	7	各班の試作	各班で開発中の商品の商品化に向けた試作
	9	ラジオ番組出演	ラジオ番組「キックス」にて、開発した商品の紹介
	11	産業フェア	産業フェアに参加し、商品の市場調査や改良のためのアンケートの実施
2023	1	大試作会	各班の試作物の他班による評価、意見交換

先端技術コミュニティ ACOT

年	月	企画名	内容
2022	4	ドローン訓練開始	操縦者の育成・技術向上を目的としたドローン操縦訓練を通年で行う。
	4	ET ロボコン	ET ロボコン出場を目指して活動を開始した。
	5	サイバー防犯ボランティア（団体員証交付式）	熊本県警本部で行われた、サイバー防犯ボランティア団体員証交付式に参加した。
	5	西原地域食堂よってっ亭	西原地域食堂よってっ亭でブース出典活動を行った。
	6	サイバー防犯ボランティア（通報活動）	SNS での不適切な投稿を通報するパトロール活動を行った。
	6	サイバー防犯ボランティア（意見交換会）	熊本県警、KC3 と活動における意見交換会を行った。
	6	ET ロボコン（技術教育）	ET ロボコン参加のため技術教育に参加した。
	6	アマチュア無線講習会に参加	ドローンレースの出場に必要なアマチュア無線 4 級の講習会に参加した。
	7	サイバー防犯ボランティア（通報活動）	KC3 と合同で SNS のパトロール活動を行った。
	9	サイバー防犯ボランティア（講話活動）	東陵高校にて SNS の利用に関する講話活動を行った。
	11	ドローン空撮	東海大学付属自由ケ丘幼稚園創立 50 周年を記念したドローン空撮を行った。
	12	サイテク祭	多良木町で開催されたサイテク祭にブース出展を行った。
	12	サイバー防犯ボランティア（講話活動）	麻生田小学校にてインターネットの危険性に関する講話活動を行った。

あにまるれすきゅープロジェクト

年	月	企画名	内容
2022	4	TNR	どうぶつ基金主催の TNR 地域集中プロジェクトに参加した。
	5	譲渡会	ジョートフル熊本主催の譲渡会に参加した。
	5	TNR	どうぶつ基金主催の TNR 地域集中プロジェクトに参加した。
	6	TNR	どうぶつ基金主催の TNR 地域集中プロジェクトに参加した。
	6	譲渡会	ジョートフル熊本主催の譲渡会に参加した。
	7	TNR	どうぶつ基金主催の TNR 地域集中プロジェクトに参加した。
	7	譲渡会	ジョートフル熊本主催の譲渡会に参加した。
	8	TNR	どうぶつ基金主催の TNR 地域集中プロジェクトに参加した。
	9	譲渡会	ジョートフル熊本主催の譲渡会に参加した。
	10	TNR	どうぶつ基金主催の TNR 地域集中プロジェクトに参加した。
	10	譲渡会	ジョートフル熊本主催の譲渡会に参加した。
	12	譲渡会	ジョートフル熊本主催の譲渡会に参加した。
	12	TNR	どうぶつ基金主催の TNR 地域集中プロジェクトに参加した。
	12	企画準備	譲渡会で実施する物販とスタンプラリーの準備を行った。
2023	1	企画準備	譲渡会で実施する物販とスタンプラリーの準備を行った。
	2	TNR	どうぶつ基金主催の TNR 地域集中プロジェクトに参加した。

札幌ボランティアプロジェクト

年	月	企画名	内容
2022	5	旭台町内会との花壇整備活動	地域の方との花壇整備活動を行った。
	6	ヒグマとの共生	札幌市南区役所・NPO 法人 TSUNAGU・東海大学サッカー部と大学近隣公園裏山の草刈りを行った。
	7	ラベンダーまつり	地域の方と大学を繋ぐラベンダーまつりの運営を行った。
	8	もいわ夏まつりでの運営ボランティア	藻岩地区町内会連合会主催のもいわ夏まつりの運営補助を行った。
	8	旭台町内会との花壇整備活動	地域の方との花壇整備活動を行った。
	9	旭台町内会との花壇整備活動	地域の方との花壇整備活動を行った。
	10	南消防署主催防災イベントでの運営ボランティア	南消防署主催の防災イベントの運営補助を行った。
	10	町内ごみ拾い	大学近隣のごみ拾いを行った。
	10	旭台町内会とのラベンダー冬囲い	地域の方との冬囲い作業を行った。
	11	町内ごみ拾い	大学近隣のごみ拾いを行った。
	12	除雪活動	地域の公共物を主な対象とした除雪活動を行った。
2023	1	除雪活動	地域の公共物を主な対象とした除雪活動を行った。
	2	除雪活動	地域の公共物を主な対象とした除雪活動を行った。

阿蘇援農コミュニティープロジェクト

年	月	企画名	内容
2022	4	援農畑づくり・種まき会	新入生交流の場として、夏作にむけて種まき
	4	援農活動	植木イベントのお手伝い
	5	援農畑づくり・収穫	ジャガイモ、お茶の葉収穫
	5	援農活動・援農ウィーク	GW を中心にイチゴの苗管理・落花生の播種作業
	6	すがるマルシェの手伝い	初めての参加、農家さんの紹介
	6	援農活動	オーガニックハーブ、イチゴ、バジル、お米農家さんへ援農
	8	援農活動	熊本高校と野菜収穫作業、ブルーベリー・ミニトマト農家さんへ援農
	8	産山村合宿（援農活動）	1 泊 2 日で援農合宿
	9	援農畑	除草・収穫
	9	援農活動	熊本県立大学合同作業
	9	十勝アグリ＆フードサミットへの参加	北海道での、農業の持続的な未来の創造を大学生の目線からプレゼンテーション
	10	援農畑	秋冬野菜の作付
	10	すがるマルシェでの手伝い	農家さんの紹介、秋作野菜販売手伝い
	10	かもめ幼稚園（芋堀り前作業手伝い）	東海大学付属かもめ幼稚園での芋掘り事前作業、サトイモ仕分け
	11	援農活動	南阿蘇村地域おこし協力隊イベントお手伝い
	11	つながる焼き芋プロジェクト参加	ユニークプロジェクト「MIRAI 広場」と、清掃活動
	12	援農活動	椎茸農家さんへ援農
2023	2	援農畑（収穫・土づくり・植え付け）	春作のジャガイモ植え付け
	2	西原校区イベントへの参加・野菜提供	子ども食堂へ野菜提供、地域の子供と交流

阿蘇は箱舟プロジェクト

年	月	企画名	内容
2022	4	刈払い機講習会	除草活動を効率的に行うために刈払い機講習会
	5	パトロール活動	不法採集を未然に防ぐこと目的としたパトロール活動
	5	除草活動	希少野生動植物が生息する保全地帯の除草
	6	水田農家の支援活動	無農薬水田の支援活動
	10	小学校での昆虫教室	熊本市立健軍小学校 PTA 会よりイベントを受諾
	10	道路整備	保全地帯の道路の整備
	12	除草活動	害虫駆除を目的とした除草
	12	星の観望会	身近な自然へ興味を向けていただくことを目的とした星の観察会

スチューデントアチーブメントセンター

年	月	企画名	内容
2022	4	新入生勧誘イベント「Tokai Welcome Festival」	湘南・伊勢原両校舎を拠点に活動する 15 団体が、チラシや展示パネル、活動で使用する車体などを用いて新入生、新 2 年生に向けて活動内容を説明した。
	6	オープンキャンパス	湘南・伊勢原両校舎を拠点に活動するプロジェクト 9 団体が、オープンキャンパス来場者に、展示パネル・模型・活動で使用するロケット・車体・機体などを用いて活動内容を説明した。
	6	第 1 回 リーダー研修会	プロジェクトを代表するリーダーと幹部メンバーがオンライン上に集い、各メンバーが理想のリーダー像について発表し、グループ内での共通点や相違点を共有した。
	6	コーディネーター能力研修会	プロジェクトのコーディネーター（職員）がプロジェクト支援に必要なスキルを学ぶため、実施した。
	7	広報講習会	各プロジェクトの広報リーダーに広報の技術を学んでもらうため、広告代理店の会社に講演いただいた。テーマは、ポスターのデザインや技術を学べる「広告デザイン講座」である。
	8	オープンキャンパス	湘南・伊勢原両校舎を拠点に活動するプロジェクト 4 団体が、オープンキャンパス来場者に、展示パネル・模型・活動で使用するロケット・車体・機体などを用いて活動内容を説明した。
	9	第 2 回リーダー研修会	同年代の先輩リーダーと、プロジェクトを代表するリーダーと幹部メンバーがオンライン上で交流し、リーダーとして問題点を客観的に分析し、活動における解決策を学んだ。
	10	チャレンジプロジェクト中間報告会	チャレンジプロジェクトの代表学生が、プロジェクト目標や今年度 10 月末までに活動を通じて学んだことや活動の成果について報告した。
	10	グローカルフェスタ	湘南・伊勢原両校舎を拠点に活動する 8 団体が、グローカルフェスタ来場者に、展示パネル・模型・活動で使用するロケットなどを用いて活動内容を説明、体験イベントを企画した。
2023	1	SAC セミナー TOKYO FM「SDGs 学部ミライコード」公開収録	プロジェクトメンバー、湘南校舎所属学生が聴講として参加。サヘル・ローズ氏と SDGs に携わる著名ゲストのトーク、聴講生との質問トークセッションを収録した。
	2	チャレンジプロジェクト最終報告会	各プロジェクトの 1 年間の活動内容とその活動から得た学びを対面とオンライン形式で発表した。
	2	第 3 回リーダー研修会	キャンパスを越えたプロジェクト学生同士の交流、およびプロジェクトリーダーの育成を通じて、プロジェクト活動の活性化を図るように実施した。